

科学研究費 基盤研究 (A)
「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンス
のあり方についての社会学的研究」
2017.10.29 (日) 名古屋大学東京オフィス

都市近郊における社会-生態系の あり方をめぐる順応的实践

—環境社会学研究と環境運動の往還から—

松村 正治

NPO法人よこはま里山研究所 (NORA) / 恵泉女学園大学たま里山研究室 (TAMA)

本日の話題

0. はじめに : 本研究プロジェクトで考えたいこと
1. NORAとは?
2. 森林づくり・里山保全の経緯と現状
3. NORAの課題対策への考え方と具体的なアプローチ

私の研究方針

研究の対象

- 都市と農村のあいだ、人と自然のあいだ（多摩・三浦丘陵群の里山）
- 日本と外国のあいだ（国境離島の島じま：八重山、対馬）

研究のねらい

- 輝かしい高度成長（「昭和」）後の、フツーに幸せを感じる社会のあり方を考える。
- 反近代ではなく、近代の功罪を抱きしめつつ、少しでもマシな社会を構想する。

本研究プロジェクトで考えたいこと

1. 都市近郊の里山ガバナンスをめぐるNORA+TAMAの実践：
多摩・三浦丘陵群 ←本日お話しすること
2. Green Giftプロジェクト（東京海上日動）に基づく環境教育
・地域づくりの実践：小松・城北地区（相模原市緑区）

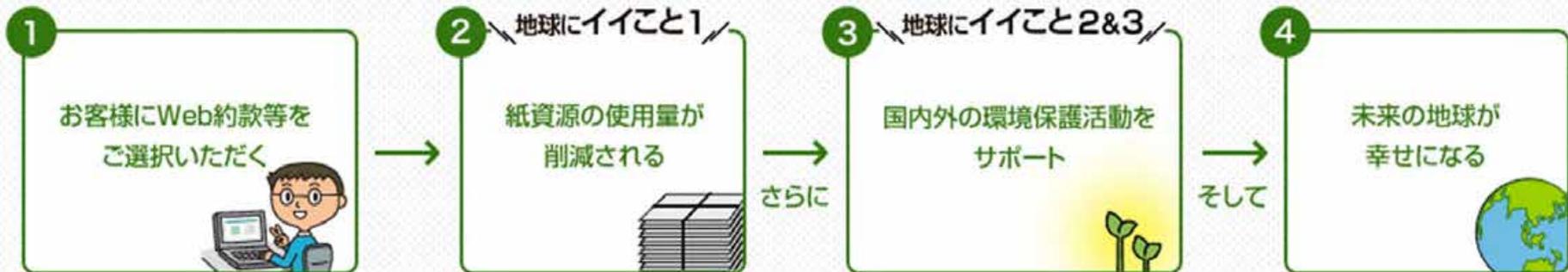
Green Giftプロジェクト



「Green Gift」プロジェクトの概要

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。

- お客様に「ご契約のしおり（約款）」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web約款」等をご選択いただくことにより、紙資源の使用量を削減。
- 紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポート。



Green Gift 地球元気プログラム

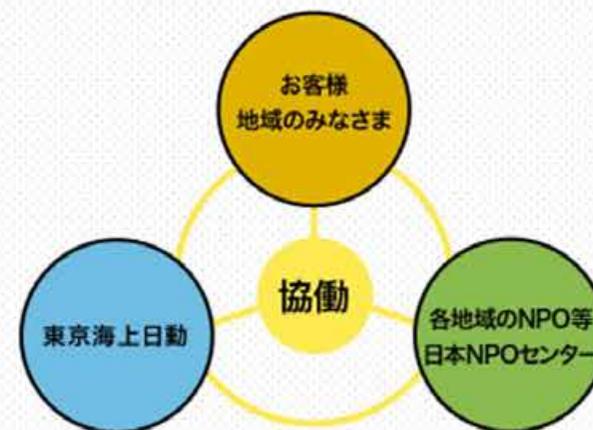
Green GiftプロジェクトのGreen Gift 地球元気プログラムは環境省の後援をいただいています。



つなげる、ひろがる

地域の環境を守るために、東京海上日動がみなさまとともに活動します。

Green Giftプロジェクトでは、日本各地域のNPO等と協働し、市民参加型の環境保護イベントの開催をサポートいたします。イベントはどなたでもご参加いただけますので、ご家族やご友人と環境保護活動に取り組んでみませんか？各地域のイベント詳細情報は、順次本ページにてお知らせいたします。



東京海上日動とともに
環境保護に取り組む22団体
2016年10月～2019年9月

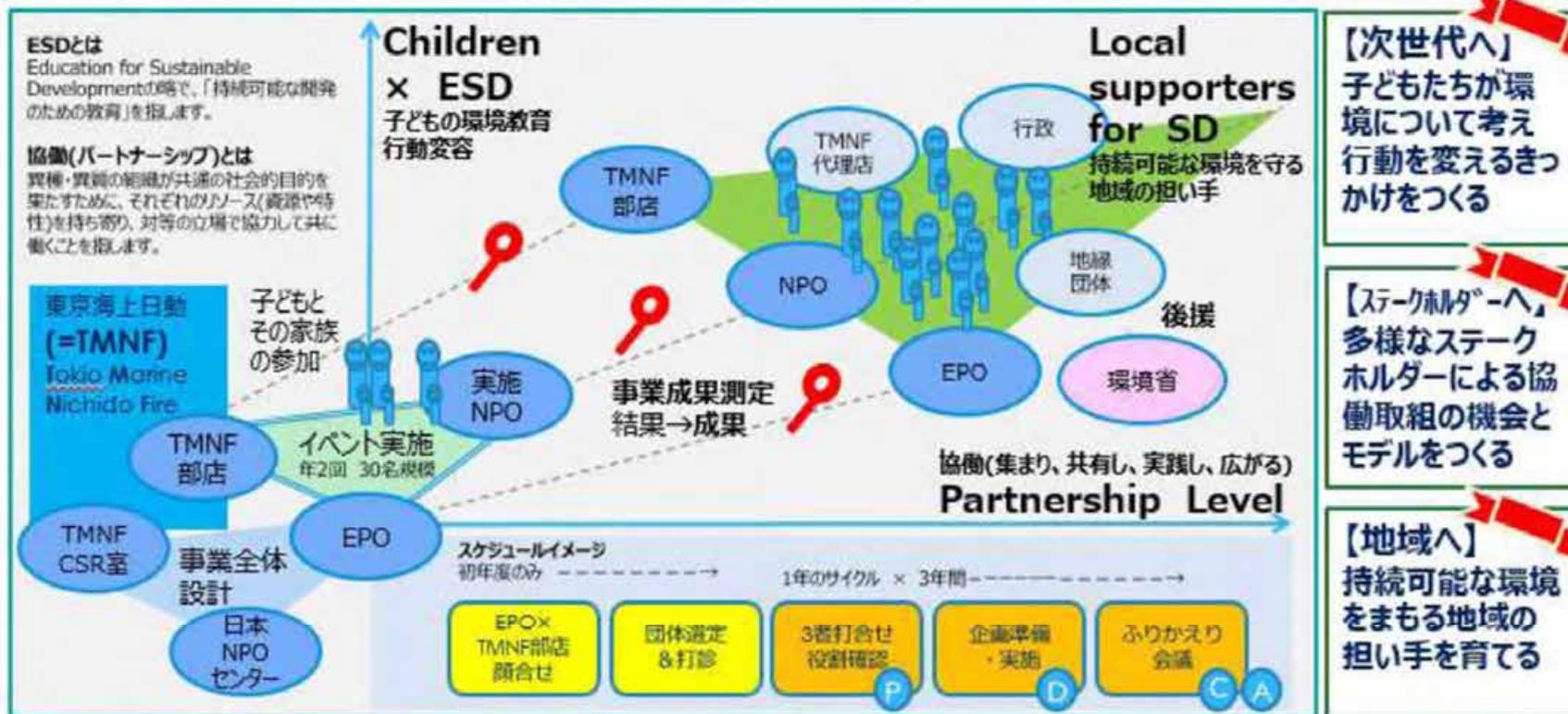




Green Gift 地球元気プログラム スキーム図

実施NPO：地域の環境に関する活動を行う市民活動団体。各種イベントの主催者となります。
 EPO：地方環境パートナーシップオフィス(Environmental Partnership Office)。環境省の機関で環境教育や協働取組の促進などの活動を行う中間支援組織。開催前後の協働のコーディネートを行います。
 東京海上日動(TMNF)：協賛いただいている企業です。地域の支店や代理店による協力もお願いしています。

3つのギフト
 本事業の目的



目的1) 子どもたちが環境について考え行動を変えるきっかけをつくる(次世代へのギフト)

子どもとご家族が環境体験イベントに参加することで、地域の環境にどんな課題があるか気づき、環境のために何ができるのか考え、行動に変えるきっかけを提供する。

目的2) 多様なステークホルダーによる協働取組の機会とモデルをつくる(ステークホルダーへのギフト)

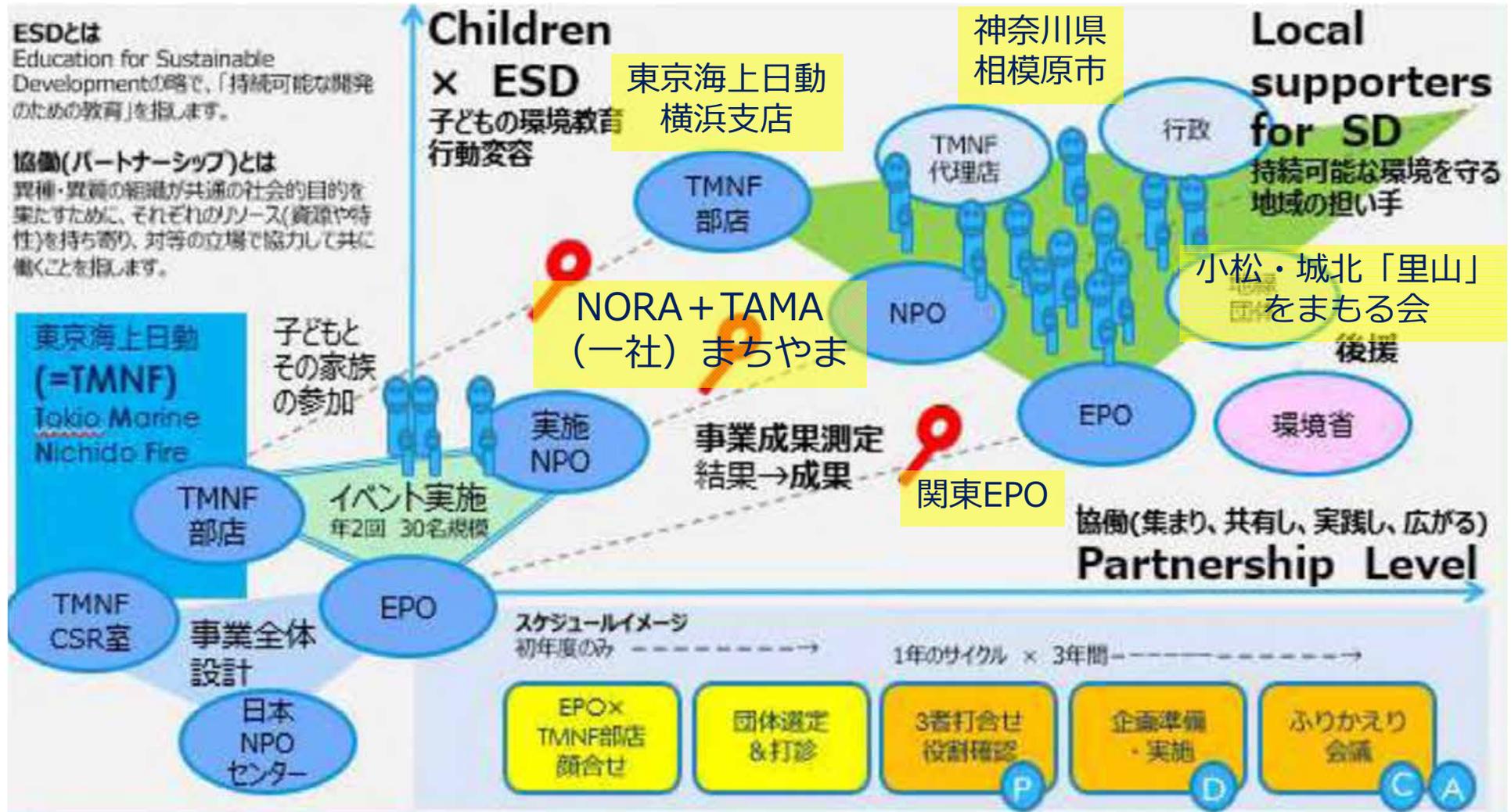
地域の多様なステークホルダーがそれぞれ得意とするリソース(資源、専門性)を出し合い、協働取組を通じてつながりを持つ機会を提供する。その手法やノウハウが他地域でも活用できるような協働モデルを構築する。

目的3) 持続可能な環境をまもる地域の担い手を育てる(地域へのギフト)

事業終了後も地域で環境活動が持続する仕組みが残り、地元の担い手による地域づくりが継続される。

贈り物は届いたか?
 成果測定の実施

小松・城北地区の実施体制



小松・城北地区の実施実績

木森

の手入れ体験 & タケノコご飯炊き!

薪で  ~親子で春の里山へ

Green Gift 地球元気プログラム

カタクリの花が咲く頃、親子で里山をまもる活動に参加しませんか?
雑木林にとって邪魔になる木をのこぎりで切り倒し、
体を動かした後は、薪 (= 里山の恵み) で炊いたタケノコご飯!
休耕農地を活かすために、ジャガイモの植え付けも体験!
春の里山を全身で感じましょう。

2017. **3.25.** 土
9:30 ~ 14:30
※小雨決行、雨天中止

開催場所
城北センター および 小松・城北地区の里山エリア
神奈川県相模原市緑区 [旧城山町]

訂数 親子 15組 (年長~小6)※保護者同伴
参加費 無 料

※環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」選定、神奈川県および相模原市の条例に基づく「里地里山保全等地域」選定

ジャガイモ掘り & ホタル観賞会

~親子で紫陽花の咲く里山へ

Green Gift 地球元気プログラム

アジサイが見頃の時期に、
畑でジャガイモを掘り、旬の食材を使って夕食を作ります。
暗くなったら、ホタルを観賞しましょう。
梅雨の里山を楽しめますよ。

2017. **6.24.** 土
15:00 ~ 20:30
14:50集合 (14:30受付開始) ※小雨決行、雨天中止

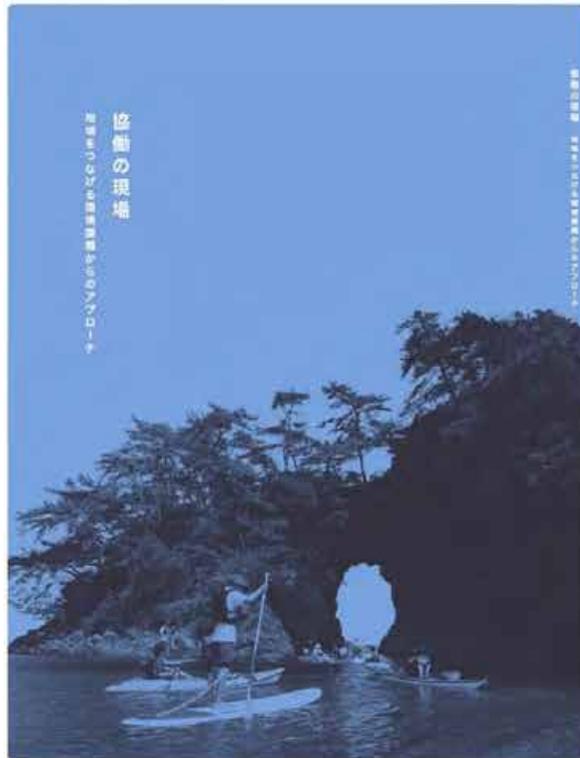
開催場所
城北センター および 小松・城北地区の里山エリア
神奈川県相模原市緑区 [旧城山町]

訂数 親子 40名 (年長~小6)※保護者同伴
参加費 無 料

※環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」選定、神奈川県および相模原市の条例に基づく「里地里山保全等地域」選定

0. はじめに

協働ハンドブック (GEOC)



2019年 8月号

協働の現場とはどのような現場か、そしてどのような現場を実現するために、協働の現場を実現するための取り組みが紹介されています。協働の現場は、協働の現場を実現するための取り組みが紹介されています。協働の現場は、協働の現場を実現するための取り組みが紹介されています。



GEOC
Global Environment Optimal Cases
地球環境「ベスト・ケース」マガジン <http://www.geoc.jp/>



2019年 8月号

協働の設計とはどのような設計か、そしてどのような設計を実現するために、協働の設計を実現するための取り組みが紹介されています。協働の設計は、協働の設計を実現するための取り組みが紹介されています。



GEOC
Global Environment Optimal Cases
地球環境「ベスト・ケース」マガジン <http://www.geoc.jp/>

VOC FREE
ep

■社会課題の解決のためには、多様な主体が適切に役割分担し、対等な立場で相互に協力して行われる「協働取組」というアプローチが必要である。行政、企業、市民団体といったセクターごとに行う従来の取組から、お互いの強みを活かすことで相乗効果を発揮する動きが活発になってきた。

■しかし、多様な主体で構成される協働取組には困難が付きまとい、それぞれの文化の違いを乗り越え、また新たに発生する課題に対処するため、協働取組の過程をデザインすることが望まれる。ここでは、協働取組の場づくりにおける4つのデザイン要素を紹介する。これらは独立して存在するものではなく、相互に関わり合いを持つ。

場づくりで大切なこと

Topic 1 関係者のまきこみ

協働は朝にどのようなステークホルダーが関わるべきか、取り組む課題に因る最大限のステークホルダーが集まることを望む。一次産業であれば生産者、教育であれば学校の参加といった当事者に近い立場を巻き込むと同時に、一見すると関係性が見えないステークホルダーの参加によって、多角的な視野を得ることが突破口になる場合もある。従来からある課題、新たに顕在化する課題に対して、既存の関係性を維持したままでは限界があるので、広範な知見や専門分野を引き入れ、実効性を持たせると良い。

同時に、個人の感情への配慮も欠かせない。コミュニケーションの取りやすさからつい同質的な人材をまきこみがちだが、そこから解決への突破口は生まれにくいばかりか、狭いにくい閉鎖性を醸成出すことになり、協働取組が持つ社会性や正當性が失われる。過去の経験やこれまでの関係性によって、最初から場を知ることが難しい際には、間に立つ仲介者を活用したり、組織としての参加ではなく、個人的な関係やアドバイザーといったハードルが低いところからの参加を促す、というやり方もある。

Topic 2 存在感の獲得

協働取組に関わりたいと思わせるものは何か。当たり前のことだが、その協働取組に関わる意義がなければ誰も参加はしない。協働体制が持つチーム性、メンバーの多様性、課題解決の手法のユニークさ、掲げている課題の先進性といった特徴があると、その魅力に影響され参加したいと思えるものだ。その地域や業界における唯一のポジションを獲得することで、さらにその先、関連する課題や人、物の動きを引き寄せるだろう。

しかし現実には、類似した課題を持った団体や居住地域にもづく地域組織も多く存在している。そのようなときに有効なのは、住み分けである。自分たちが担う領域を特定することで、他組織との差別化を図ることが出来る。課題解決の主体の中でどの部分を担うか、という視点を持つと良い。この視点は当事者だけでは難しいので、客観的な意見を取り入れ、常に自分たちの存在価値を再確認する機会が必要である。

Topic 3 基本原則の共有

何をよりどころにするか。旗手メンバーが多様であることが協働取組の強みであり弱みでもある。それぞれの組織が元々持つ文化や慣習の違いを乗り越え協働するためには、指針が必要だ。異なる主体をつなげるものを明確にする上で、公平に意見を交わせる安心感が生まれ、参加者一人ひとりの主体性につながる。協働取組によって、それはルールや、目指す方向など種々だ。

同時にそのような基本原則は、協働取組をリードする立場にとっても有効だ。議論が深めば進むほど、その課題に対して自分たちも中立ではいられなくなるかもしれない。無意識のうち自分たちと異なる意見を軽んじたり、議論を誘導したりすると、協働体制の中で議論が生じる。運営の上位概念として立ち返ってくる場所があることが結果につながる。常にその原則を振り返らせたい。懸念ができたため、不必要なエネルギーも生まれない。

まずは分かりきったことで明文化すると良い。その共、合意した原則から外れていないか、もしくは原則そのものに見直すべき点がないかの点検も忘れないようにしたい。



VISION & RULES

Topic 4 透明性の担保

みんなが安心して関わり続けるためにはどうするか。協働取組は合意形成の積み重ねである。一団体にによる任意の活動ではない。協働取組に関わる全てのプロセスには透明性が必須だ。何らかの意思決定や出来事がブラックボックス化することは参加者が不満を持ち離反するリスクになるからだ。

このようなことから、協働取組の過程の会議一つひとつにおいても事前の告知から事後の報告といった、関係者が納得できる手順を踏むことが重要である。例えば、今日集まったこの場が「決めない会議」であることが分れば、不在のメンバーに気兼ねなく打ち合わせやプレスで盛り上がることもあり、逆に「決める会議」であれば不在者から事前の意見募集も効果的に行える。

さらに対外的に透明性を保つことで、活動が閉じず、潜在的なステークホルダーを呼び寄せることにもつながる。まず対外的には決め方から一掃に決めるという丁寧さを持ちながら、対外的な窓口や情報発信役もきちんと設置すると良い。活動そのものが広範囲になれば、いざれ必要とされる人材が自ら参加してくるだろう。





変化に応じた場づくり

■協働取組の過程は、さながら集団で山登りするようなものがある。それぞれ登る理由は違っている。まずはこの山に登りたいという共通の目標がある。途中で出会う障害を乗り越えるためには助け合いが不可欠であり、一つの山に登りきると、またさらに高い山が見えてくる。

■また、装備の分担や集団行動するうえでのルールづくりなどの事前準備をしても、登っている途中で不測の事態が起きる可能性は高い。天候が急に変わったり、道がふさがって迷回りを強いられたりすることもある。出会った人から思わぬ援助をもらうことやお互いを理解し合うことでチームワークが育まれていくこともあるだろう。不測の事態に対し、スケジュールや役割分担などを柔軟に見直し、その都度最善策を取っていくことである。

■協働の場づくりもまた、活動を開始した最初の一回限りで終わるものではなく、協働の過程で発生するあらゆる変化に対応して繰り返される。プロセスの変化、マイナスの変化を感じた時には、立ち止まってその場づくりを再評価してはどうか。そうすることで、より素晴らしいパートナーが全員で見られるというものだ。



シンポジウムへの助走として

■シンポジウム

【テーマ】環境社会学と「社会運動」研究の接点——いま環境運動研究が問うべきこと

【趣旨】

日本の環境社会学は、そのルーツの一部に社会運動研究を有している。学会創設期には、対抗的な住民運動や被害者運動を研究対象とし、運動の展開過程を左右する構造的要因や、参加者・支援者の動員過程を明らかにしようとする試みが多くの研究者によって取り組まれてきた。こうした研究はその後引き続きおこなわれており、対抗的な住民運動や被害者運動が環境社会学にとって重要な研究対象の一つであることは現在も変わらない。

他方で、今日では「社会運動なるもの」の射程が政策提言型市民活動やNPO/NGO・ボランティアや市場志向型活動・社会的企業にまで拡大したのにもない、「環境運動なるもの」も多様化している。理論的展開に関しては、社会運動論において1990年代の文化論的転回を経て祝祭性や経験運動といったテーゼが提示されるなどしてきたのに対して、環境運動研究ではこうした流れが取り入れられつつも独自の論点をめぐって議論が展開されてきた。たとえば、問題構築過程としての環境運動、リスク分配の不正に抗する環境正義としての環境運動、環境運動の制度化とそのジレンマ、環境運動の問題解決志向性や実践性などである。

本シンポジウムでは、こうした「環境運動なるもの」の多様化が進み、かつ社会運動研究および環境運動研究の理論的展開が進む状況を踏まえ、次の2点について考えたい。すなわち、新たにあらわれた人びとの活動を広義の環境運動ととらえて研究することの意義と、さまざまある社会運動のなかでも「環境」を対象とするがゆえの環境運動および環境運動研究の特有さや意義についてである。より具体的にいえば、環境をめぐる人びとの取り組みの実践性をどのようにとらえることができるのか、環境に特有の問題構築のあり方やリスク分配の不正さや運動の制度化とはいかなるものなのか、環境運動の成果outcomeとは何なのか、について考えるということである。

自然環境に対する人びとの多様な働きかけを広義の環境運動としてとらえ、それらを社会運動という切り口から論じることの強みや困難さはどこにあるのか、なぜ社会運動研究ではなく環境運動研究なのか。これらの問いを通じて、環境社会学における環境運動研究の役割について今日的視点から検討することが、本シンポジウムのねらいである。

【登壇者】

報告者（1）	寺田良一（明治大学）
報告者（2）	松村正治（恵泉女学園大学）
報告者（3）	西城戸誠（法政大学）
コメンテーター	濱西栄司（ノートルダム清心女子大学）
コメンテーター	嘉田由紀子（びわこ成蹊スポーツ大学）
司会・解題	青木聡子（名古屋大学）

環境社会学学会大会
2017.12.3（日）
明治大学駿河台キャンパス

本日の発表のねらい

- NORAという環境NPOの代表Mさんが、なぜそのような環境運動をおこなっているのかを、Mさんの意味世界を理解しながら考察しようとする環境社会学的な試み。

本日の発表に関連する過去の研究

- 松村正治 2000 『都市近郊の里山保全 NPO に関する研究：ボランティアの参加動機と期待される社会的機能とのずれに注目して』（1999年度東京工業大学社会理工学研究科修士論文）。
- 松村正治 2007 「里山ボランティアにかかわる生態学的ポリティクスへの抗い方：身近な環境調査による市民デザインの可能性」『環境社会学研究』13: 143-157.
- 松村正治・香坂玲 2010 「生物多様性・里山の研究動向から考える人間-自然系の環境社会学」『環境社会学研究』16: 179-196.
- 松村正治 2013 「環境統治性の進化に応じた公共性の転換へ—横浜市内の里山ガバナンスの同時代史から」宮内泰介編『環境保全はなぜうまくいかないのか—現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社: 222-246.
- 松村正治 2015 「地域主体の生物多様性保全」大沼あゆみ・栗山浩一編『シリーズ環境政策の新地平 4 生物多様性を保全する』岩波書店: 99-120.

本日の話題

0. はじめに : 本研究プロジェクトで考えたいこと
1. NORAとは？
2. 森林づくり・里山保全の経緯と現状
3. NORAの課題対策への考え方と具体的なアプローチ

NPO法人よこはま里山研究所（NORA）とは

- 2000年設立 2001年法人格取得
- **里山とかかわる暮らしを**実践することにより
 - 里山の生態系を豊かにするとともに
 - 私たちの暮らしの質も高めることをめざす**都市住民**中心のNPO
- 会員数 100名 （内スタッフ20名）
- 40～50代中心 男：女=6：4



里山とかかわる暮らしを。



里山ごよみ | 葉月

お知らせ

『地モノ市』ボランティアスタッフを募集します [前日11/11・当日11/12]

【申込受付中】里山ボランティア安全技能研修～活動は楽しく安全に(全4回) [11/25-]

10/21シンポジウム「環境ボランティア活動を楽しむ『安全に』すすめるルールづくり」開催

第18期通常総会を開催しました

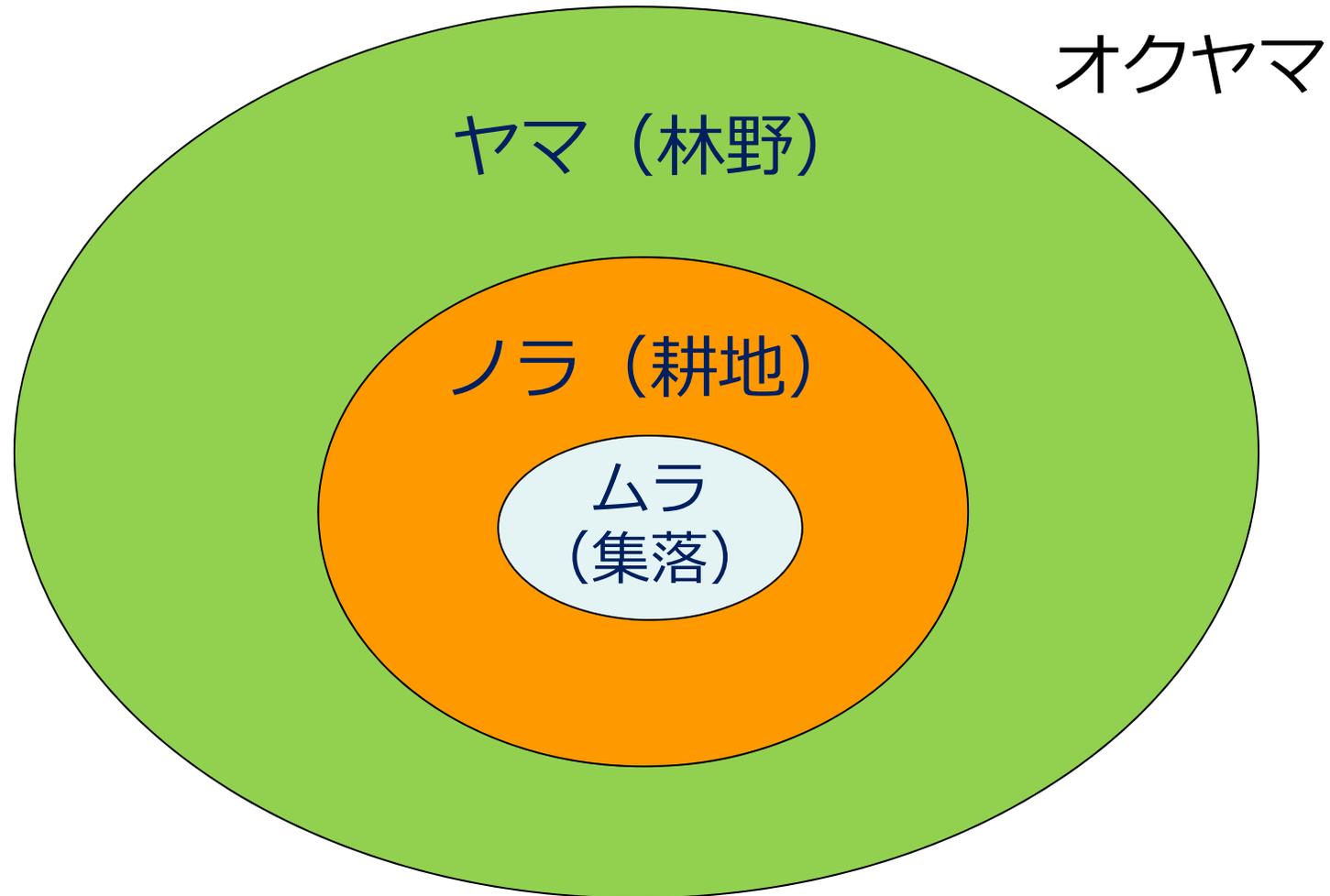
今年もトンボとり大作戦を実施しています

『ミルマップ・ワークショップ!～みんなで描く森づくりプラン』公開 (DL可)

NORA設立の背景・経緯

- 1980年代～ 横浜市内で里山保全活動が活発に。
- 1996年 10団体でよこはまの森フォーラムを結成。
行政と協働しながら、全国雑木林会議など、各種イベントや講座を企画・実施。
→助成金が途絶えて、活動縮小後、解散。
- 2000年 里山保全+コミュニティビジネスを旨とし、よこはま里山研究所（NORA）を設立。
2001年NPO法人化。

NORAの事業と里山モデル



都市住民が、日常的にヤマ、ノラ、ムラをつくり、ハレを楽しみながら、イキモノを豊かにする。

特定非営利活動法人
よこはま里山研究所~NORA
www.nora-yokohama.org
(2000年設立 2001年法人登記)

(2017.8.19現在)



支社 たま里山研究室 [TAMA] (松村)

地方支部 佐渡支部 (十文字) 大崎支部 (鈴木慈子)
高野支部 (山田) ←富貴・筒香ファンクラブ

NORAの仲間たち ナチュラルリングトラスト まちやま
「小松・城北」里山をまもる会
多摩グリーンボランティア森木会 FIO
幸陽園農耕班 はやし農園 森ノオト
日本の竹ファンクラブ よこはまかわをを考える会
横浜コミュニティカフェネットワーク
里山倶楽部 日本環境保全ボランティアネットワーク

よこはま里山レンジャーズ協力団体 (★)
恩田の谷芦フアングラブ [青葉区]
新治里山「わ」を広げる会 [緑区]
桜ヶ丘・水辺のある森再生PJ [保土ヶ谷区]
潮上さとやまのりの会 [栄区]

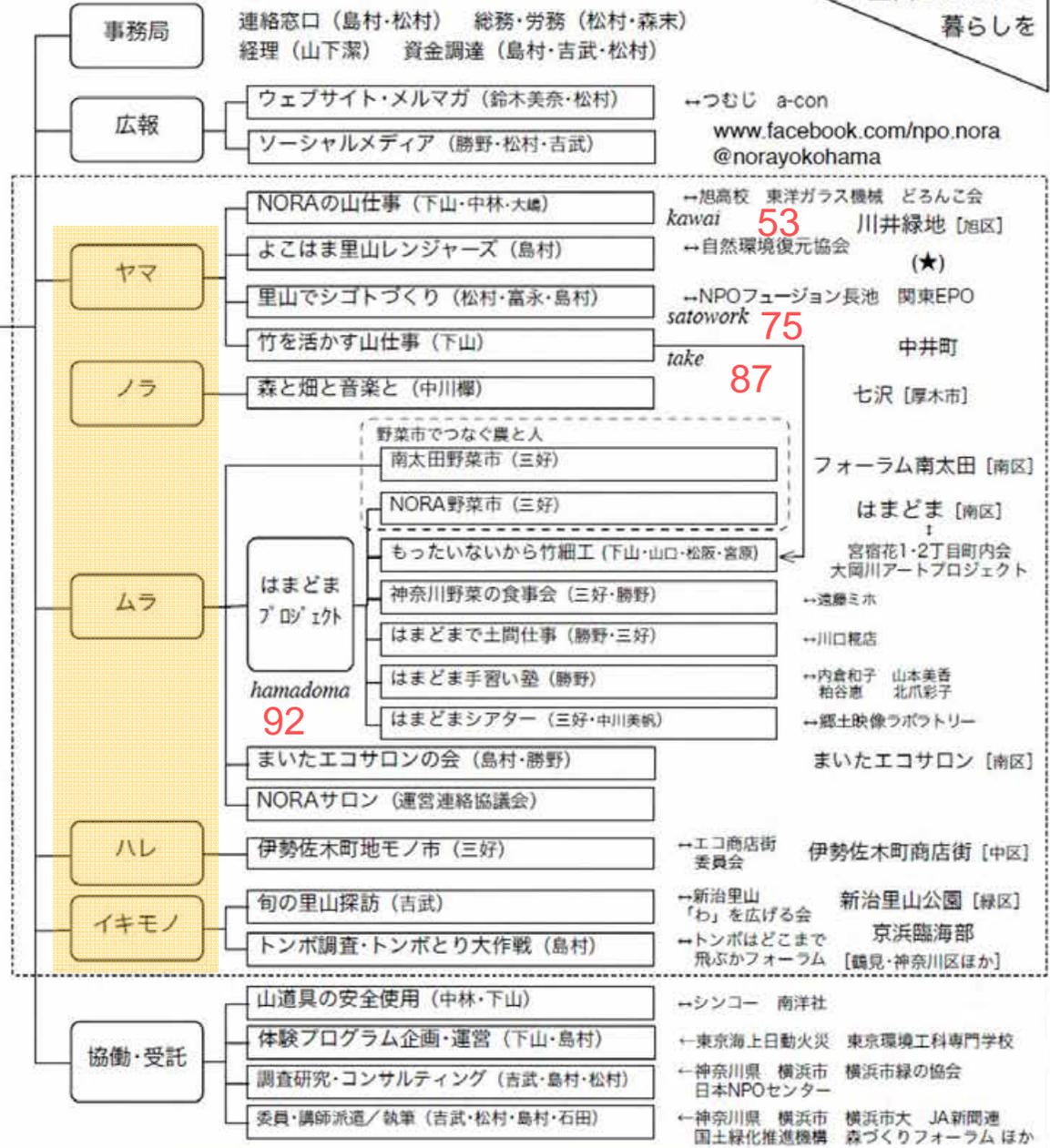
NORA人の仕事 まさみ ふあくとりい (勝野) 37 (鈴木美奈)
神奈川・緑の劇場 (三好) 山惣 (下山)
横浜エコアップ研究所 (島村) Choji (村田)

admin

運営連絡協議会

勝野 真美
島村 雅英
下山 康博
鈴木 美奈
中林 博志
松村 正治
三好 豊
森末 香織
吉武 美保子

office@nora-yokohama.org



里山とかかわる暮らしを

今月の予定

- 10月03日 (火)  ▶ 季節の素材でスイーツメイキング はまどま (横浜市南区)
- 10月03日 (火)  ▶ 野菜市がつなく農と人～NORA野菜市 はまどま (横浜市南区) 等
- 10月04日 (水)  ▶ 旬の里山探訪～赤とんぼのかんざつ 横浜市緑区
- 10月06日 (金)  ▶ お香のてならい～匂い袋・文香づくり体験 はまどま (横浜市南区)
- 10月07日 (土)  ▶ 木の葉月の五行飯 はまどま (横浜市南区)
- 10月08日 (日)  ▶ NORAの山仕事 横浜市緑区
- 10月08日 (日)  ▶ 身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん～咳予防の薬膳 はまどま (横浜市南区)
- 10月09日 (月)  ▶ 森に抱かれた水田で稲刈りしよう (稲刈り+BBQ) 厚木市七沢
- 10月09日 (月)  ▶ 「まちの近くで里山をいかすシゴトづくり」実践ゼミナール～第2回：里山の恵み×ネット販売 首都圏東西部
- 10月10日 (火)  ▶ 野菜市がつなく農と人～NORA野菜市 はまどま (横浜市南区) 等
- 10月13日 (金)  ▶ お香のてならい～練り香づくり体験 はまどま (横浜市南区)
- 10月14日 (土)  ▶ もったいないから竹細工 (竹かご教室) はまどま (横浜市南区)
- 10月15日 (日)  ▶ 野菜市がつなく農と人～地モノ野菜市@フォーラム南太田まつり2017 はまどま (横浜市南区) 等
- 10月15日 (日)  ▶ はまどまミニシアター『西米良の焼畑』(宮崎県)『八朔踊りとメンドン』(鹿児島県硫黄島) はまどま (横浜市南区)
- 10月15日 (日)  ▶ 竹を活かす山仕事 足柄上郡中井町
- 10月17日 (火)  ▶ 野菜市がつなく農と人～NORA野菜市 はまどま (横浜市南区) 等
- 10月19日 (木)  ▶ もったいないから竹細工 (竹細工工房) はまどま (横浜市南区)
- 10月20日 (金)  ▶ 野菜市がつなく農と人～フォーラム南太田・手作りマルシェ はまどま (横浜市南区) 等
- 10月20日 (金)  ▶ お香のてならい～コーン型お線香づくり体験 はまどま (横浜市南区)
- 10月21日 (土)  ▶ 生産者の心とともに季節を味わう・神奈川野菜の食事会vol.5 はまどま (横浜市南区)
- 10月21日 (土)  ▶ 【シンポジウム】環境ボランティア活動を楽しく「安全に」すすめるルールづくり 首都圏東西部
- 10月22日 (日)  ▶ NORAの山仕事 横浜市緑区
- 10月24日 (火)  ▶ 野菜市がつなく農と人～NORA野菜市 はまどま (横浜市南区) 等
- 10月27日 (金)  ▶ お香のてならい～塗香づくり体験 はまどま (横浜市南区)
- 10月28日 (土)  ▶ もったいないから竹細工 (竹細工工房) はまどま (横浜市南区)
- 10月28日 (土)  ▶ ヤマアカガエルの産卵する湿地の草刈り！ in 瀬上市民の森 横浜市内
- 10月28日 (土)  ▶ はまどま劇場・朗読会～郷静子作『れくいえむ』(第1部/全3部) はまどま (横浜市南区)
- 10月29日 (日)  ▶ 森に抱かれた水田で稲刈りしよう (稲刈り+BBQ) 厚木市七沢
- 10月31日 (火)  ▶ 野菜市がつなく農と人～NORA野菜市 はまどま (横浜市南区) 等



1. NORAとは？



名称：**川井特別緑地保全地区**
(略称：川井緑地)

面積：**5.3ha**
(個人3.1ha, 市2.2ha)

根拠：**横浜市協働による森づくり要綱**に基づく活動

定例活動日時：**第2・第4日曜**
10時～16時

平均参加人数：**約12名**

NORAの山仕事@川井緑地

- 2003年 **ごみの不法投棄**問題を解決するため、地域を巻き込み**クリーンアップ**を実施（5年間で40t回収）。



- ごみの片付け後、森林再生に着手し、下刈り、除間伐、植樹、製材などの保全活動を定例化。
- 森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した。

NORAの山仕事～利用できる森づくり

1. 木材の利用 規格化



– 直径20cm以上：長さ300cm（→簡易製材→板材）



– 直径20cm以下：長さ120cm→薪割り→薪用

NORAの木材活用例



←川井緑地外周道路にデッキを設置
(平成20年度ヨコハマ市民まち普請事業)



↑
はまどまのカウンター・本棚に利用

NORAの山仕事～利用できる森づくり

2. 森の恵みの利用



3. 森林空間の利用

ガッツリ系-和み系



竹を活かす山仕事@中井町

- 親しい農家に頼まれ、竹林0.4haの除間伐に協力。
- マダケの伐出→竹細工の材料
- もり・みず 市民事業支援補助金（神奈川県）を活用。



もったいないから竹細工@はまどま

- 竹かご教室：7種の竹かごの編み方を教わる。



- 竹細工工房：竹ひご、カトラリーなどを自主的につくる。



本日の話題

0. はじめに : 本研究プロジェクトで考えたいこと
1. NORAとは？
2. 森林づくり・里山保全の経緯と現状
3. NORAの課題対策への考え方と具体的なアプローチ

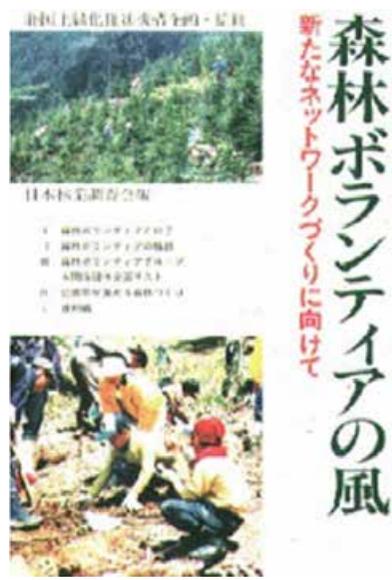
首都圏における森林ボランティア活動の経緯

- 1980年代後半～ 市民団体による活動の始まり
 - 1983年 舞岡公園予定地で谷戸を守る運動 ←里山保全
 - 1986年 西多摩地域の雪害被害木の片付け ←林業支援
- 1990年代 森林ボランティア活動の広がり
 - 1995年 第1回森林と市民を結ぶ全国の集い開催
 - 1994年 東京の木で家を作る会設立
 - 1995年 森づくりフォーラム結成
 - 1996年 よこはまの森フォーラム結成
 - 1999年 NORA・神奈川森林エネルギー工房設立

森林ボランティアに関する本



1999



2000



2001



2004

全国的な里山保全の経緯

1980年代

- 里山保全の黎明
- 里山の意義の再発見

1990年代

- 市民による里山保全の展開

2000年代

- 行政による施策・事業展開

2010年代

- 各地の自治体に里山条例

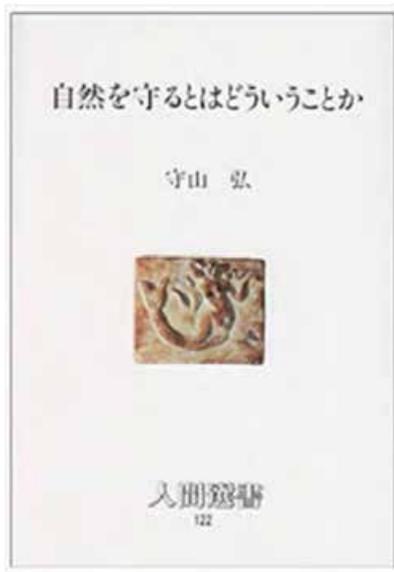
期日：2010年10月30日（土）～31日（日）
 会場：大原市立自然史博物館（大原市東区宮沢長谷公園1-23 <http://www.mursh.city.osaka.jp/>）
 主催：森林総合研究所関西支所/大原市立自然史博物館/総合地球環境学研究所「日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討」プロジェクト

1980年代
 1990年代
 2000年代
2010年代のための 里山シンポジウム
 —どこまで理解できたか、どう向き合っていくか—

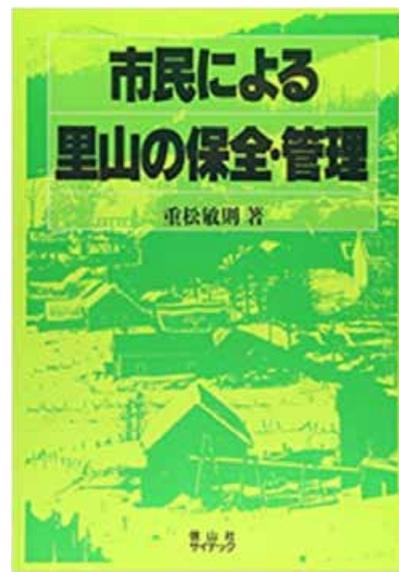
10月30日（土） 10:00～17:00	10月31日（日） 9:30～16:40
【第1部：里山とは何か？】 ■ 里山は「自然」的システムであったか？ 長久保 大輔（大原市立自然史博物館） ■ 木と林の植生学的位置づけ 野宮 尚晃（神戸女学院大学） ■ 千年、百年、数十年スケールでの森の移り変わり 里山の形成と変遷 高野 光（京都府立大学大学院） ■ 里・里山の成立 本野 幸二（近畿大学） ■ 明治・大正期における外来肥料の増加と里山（林間・里野）への植林 小林 茂（大阪大学大学院） ■ 里山の土地利用変化 深町 加津枝（京都大学大学院） ■ 木材利用技術の変化と里山資源 村上 由美子（総合地球環境学研究所）	【第2部：里山をどうするか？】 ■ 人為擾乱とナラ類 大石 克洋（森林総合研究所） ■ 不安定化する里山生態系—近年のナラ枯れ拡大が示すこと 黒川 慶子（森林総合研究所） ■ 地域生物多様性の保全 本間 航介（関西大学） ■ 市民参加による里山保全の社会学 松村 正治（奈良女子医科大学） ■ 資源利用を成立させる実践技術 津本久保（栃本里自然環境館） ■ 里山からの資源利用は社会も豊かにできるのか 奥 三敬（森林総合研究所） 【総合討論】 両日とも休憩時間にもスターセッションを行います。

【参加費】 参加は無料です。参加ご希望の方は、事前に下記のシンポジウム事務局まで、メール、はがき等で氏名、所属、連絡先（電話・メール）をお知らせください。当日の参加も可能ですが、会場の定員（200名）を超えらる場合は、ご参加できません。

里山保全に関する本（1980～90年代）



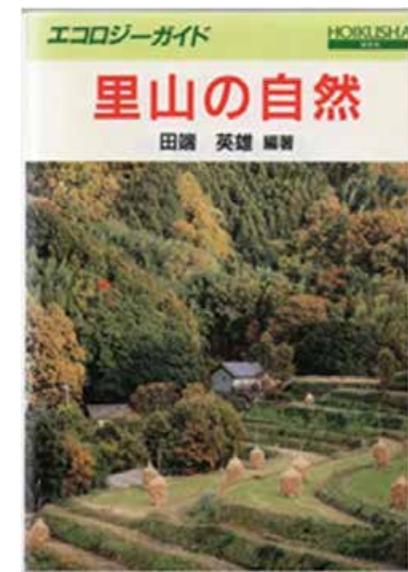
1988



1991



1996



1997

里山物語

SATOYAMA
In Harmony with Neighboring Nature

今森光彦
Mitsuhiko Imamori

新潮社

1995

1. 森づくり活動のこれまで

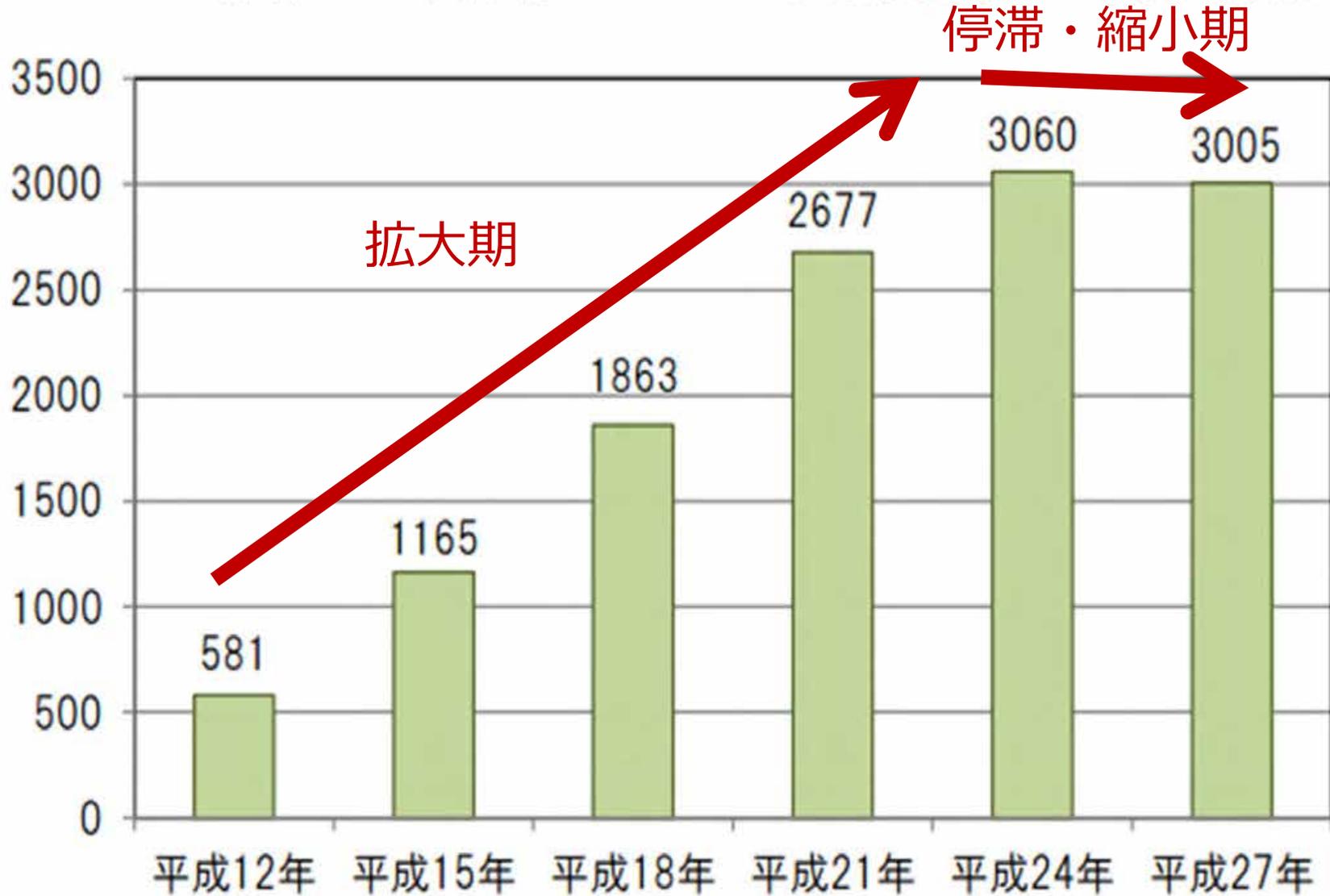
36

2000年代～森林ボランティア・里山保全の展開

- 2000年 愛知万博「海上の森」開発断念
- 2002年 新・生物多様性国家戦略 **里山の危機**
- 2003年 林野庁、森林ボランティア支援室を設置
- 2007年 21世紀環境立国戦略を閣議決定
→**SATOYAMAイニシアティブ**
- 2010年 生物多様性条約COP10名古屋開催
- 2013年 森林・山村多面的機能発揮対策交付金

2000年代以降、行政による支援・事業が進んだ

「森林づくり活動についての実態調査」の対象団体数



森づくり活動の実態調査（H27年度）結果概要

- 活動団体数の拡大期から**停滞・縮小期**へ
- 活動内容の**多様化**
森づくり＋環境教育、普及啓発、都市山村交流 etc.
- 運営・技術の**高度化**
専従スタッフ有、主伐や搬出も ←林野庁交付金？
- 課題は解消されていない
メンバーの高齢化、スタッフ・活動資金の確保

森づくり活動の停滞は問題なのか？

- 1980～90年代、都市住民が森林・山村に関われる数少ない方法として**森林ボランティア**活動があった。しかし、多くの人びとは都市生活と補完的なレクリエーションだった。



- リーマンショック（2009）、東日本大震災（2011）後の現在、都市生活の脆弱性よりも、**地域**に根ざした農山村での**仕事と暮らし**を志向する人びとが増えている。地域おこし協力隊などの地方創生策の支援もあって、田園回帰の兆しが見えている。

里山保全活動の現場における課題

- **生態系管理**

目標植生を立てて活動をおこない、モニタリング調査を実施しながら、順応的に生態系を管理するのが理想だが・・・

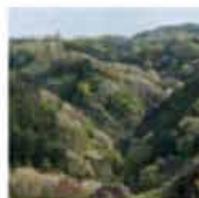
→生態学的ポリティクス

- **リスク管理**

「怪我と弁当は自分持ち」では済まない。安全管理の徹底、技術レベルに応じた活動が必要だが・・・

- **持続可能な組織経営**

メンバーの高齢化、スタッフ・活動資金の不足に対しては、新しいアプローチが求められるも・・・



横浜市森づくりガイドライン

平成25年3月
横浜市環境創造局みどりアップ推進課



1-7 薪炭林型クスギ・コナラ林 ②

● 作業内容

一定以上の面積 (0.1ha 程度) を一斉に伐採・更新します。伐採後、樹高が7~8m に達するまでの2~5年間程度は、毎年の下刈り、落ち葉かきが必要となるほか、もやかし、枝下ろしなど実施できない作業項目が多くなります。

また、管理により発生する可燃、薪炭材などは原則として全て林外搬出が望ましく、個々の管理項目の作業量も多いため、事前に充分な検討・協議・計画が必要です。前年更新は見込みのインパクトも大きい作業です。伐採前には利用者などに広く周知し、理解を得ながら行いましょう。

1. 下刈り (伐採前) 【必須】

- 伐採作業に備え、中低木やササ類を刈り取る。刈柄は集積し搬出する。
- 伐採作業時の安全を確保する。

2. 伐採【必須】

- 原則としてすべての高木を伐採する。伐採の高さは30~50cm程度で伐採する。切り口は切り戻しておく。
- 伐採位置は低いほうが萌芽しやすいが、安全管理等の観点から低く切りすぎないようにする。
- 切り口をそのままにしておくと腐りやすい。伐採位置の少し下で切り戻すことで腐食を防ぎ萌芽率を上げる。暑期にもよい。

3. 下刈り (伐採後) 【必須】

- 刈り高10cm程度で草本・低木等を刈り取る。アズマネザサが繁茂する場合は刈り高0cm(地際)で刈る。薪は搬出。
- 萌芽した初期のコナラやクスギが、生育の旺盛な先駆性の低木類や大型草本に被圧されるのを防ぐ。
- 萌芽した木の周囲だけを刈り取る「つぼ刈り」という手法もある。

4. 落ち葉かき

- 林床に増殖した落ち葉や枯れ枝を木の枝や笹平などでかき集め、1カ所にまとめるか搬出する。
- 落ち葉の堆積は林床植物の発芽の妨げとなる。

5. 枝下ろし

- 混み合った下枝を剪定する。剪定枝は搬出する。
- 下枝の剪定により樹高の伸長が促される。



伐採準備をすらすらしてモビイク状にいろいろなステージの林分を作ることで多様性アップ!

【萌芽更新後の必須作業「もやかし」について】

- ・萌芽更新に成功するとたくさんの芽(ひこばえ)が生えてきます。
- ・つい間引きたくなりますが、3~4年程度は競争させ台風や雪を軽減させます。
- ・競争の結果、強い芽を3本程度見極められたら、ほかは葉にかきとります(もやかし)。

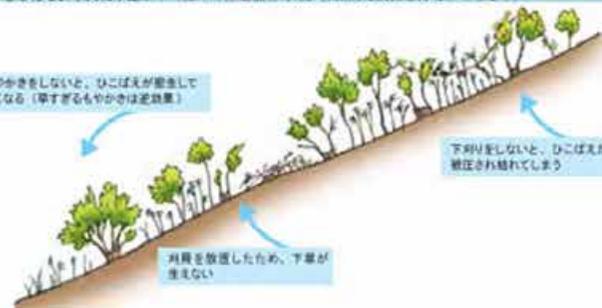
● 作業スケジュールと注意点

作業	頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 下刈り (伐採前)	伐採前に	×	×	×									
2. 伐採	8~10月ごろ	×	×	×									
3. 下刈り (伐採後)	・毎年(1~5年) ・2~3年ごと(6年~)	×	×	×									
落ち葉かき		×	×	×									
もやかし	3~4年目	×	×	×									×
枝下ろし	必要に応じて	×	×	×									×

クスギなどが伐採で繁殖する。薪炭材の搬出後、薪炭材をよどめる。

白蟻や菌に被害のないものを残す。

■ こうなったら、手入れ不足! (後々の作業量も考え、計画的な伐採を行ないましょう)



ワンポイントアドバイス 広葉樹の枝うちと伐採の適期

- 枝打ち
 - 活性的な木に行うことで切り口が癒合しやすくなる(大枝を抜くような骨格剪定は別。針葉樹は冬に枝うちする)
- 伐採
 - 樹木への影響が大きいため、葉に伐採すると枯死する(捨て伐)
 - 萌芽更新を行う場合は、休眠が終わる直前(3月中旬~下旬)に伐採すると最も萌芽率が高い。



萌芽更新に成功

部位	作業期間	結果	ポイント
枝 (枝打ち)	夏	切り口が癒合する	樹木の活性が高くて、その間に癒合する(気節)
	冬	切り口が乾く	休眠期であるため癒合しにくく、腐みやす(死節)
幹 (伐採)	夏	萌芽しない	木を伐採する機会(捨て伐)
	冬	萌芽しやすい	萌芽更新や高さを認めたい場合(樹木を活かす)

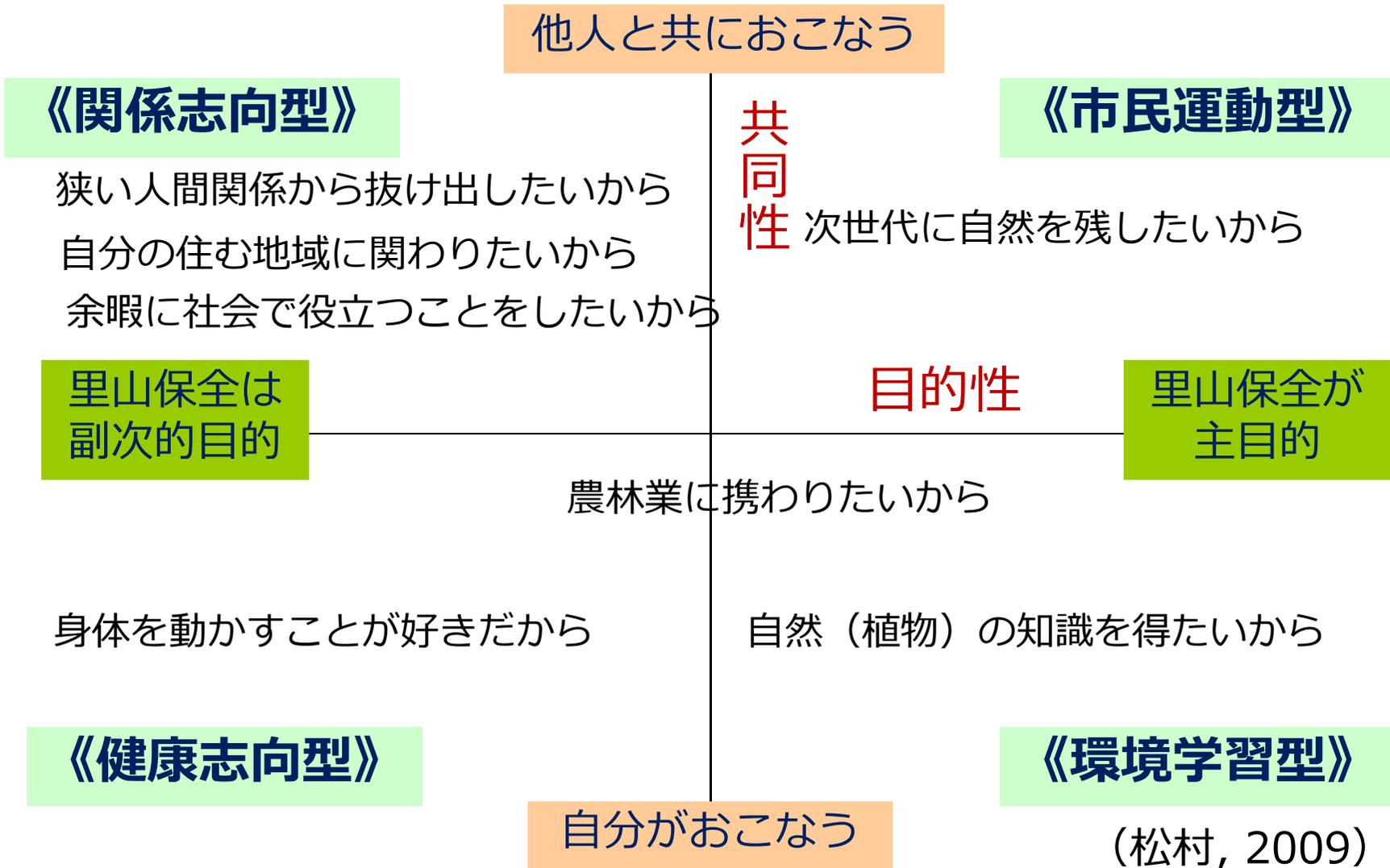
○その他支援を受ける場合の留意点等

- 1活動組織当たり、年度毎に500万円（国からの交付額）を上限として支援します。
- 人工林でも活用できます。
- 地域の活動組織が持続的に里山林の整備や利用活動を実施することを基本として、森林整備の作業等について、地域の森林組合などに作業の一部を委託することができます。
- 採択に当たっては、会費の徴収等により財政基盤が確保されており、安全研修を計画しているなどの一定の安全技術の向上が期待できる組織を対象とします。
- また、活動計画書に活動の目標と活動結果のモニタリング方法が記載されている必要があります。



「平成29年度『森林・山村多面的機能発揮対策交付金』についてのご紹介」より

森林ボランティアの参加動機



NORAのリスク管理に対する取り組み



シンポジウム

環境ボランティア活動を
楽しく「安全に」すすめる
ルールづくり

2017.10.21. 国 13:00-16:30
多摩市立グリーンライブセンター

主催：NPO 法人よこはま里山研究所（NORA） / 恵泉女学園大学たま里山研究室（TAMA） / 協力：株式会社かんぼ生命保険



地域推進協議会のご紹介

森づくり安全技術・技能全国推進協議会では、[森づくり安全技術・技能習得制度](#)に賛同する森づくり団体に『地域推進協議会』を構成して頂き、それらを通じて研修・審査活動を行っています。

2015年7月現在、全国6地域に地域推進協議会があり、活動しています。

いわて森づくり安全技術・技能地域推進協議会

[NPO法人いわて森林再生研究会](#)

[いわて森林を守る会](#)

[間伐ボランティアいわて](#)

ふくしま森づくり安全技術・技能地域推進協議会

[NPO法人いわきの森に親しむ会](#)

[ふくしまグリーンフォレスターの会](#)

[岩出の郷里山クラブ](#)

[NPO法人いわき竹プロジェクト](#)

[いわき金成公園里山づくり協議会](#)

群馬県森づくり安全技術・技能地域推進協議会

[NPO法人フォレストぐんま21](#)

[群馬ビジョンを推進する県民の会](#)

[\(株\)世田谷川場ふるさと公社](#) ほか

大阪森づくり安全技術・技能地域推進協議会

[NPO法人日本森林ボランティア協会](#)

[NPO法人里山倶楽部](#)

[NPO法人島本森のクラブ](#)

[NPO法とどろみの森クラブ](#)

ひろしま森づくり安全活動推進協議会

[ひろしま緑づくりインフォメーションセンター \(GIC\)](#)

えひめ森づくり安全技術・技能地域推進協議会

[えひめ森林ボランティア連絡協議会](#)

[石鎚水源の森くらぶ](#)

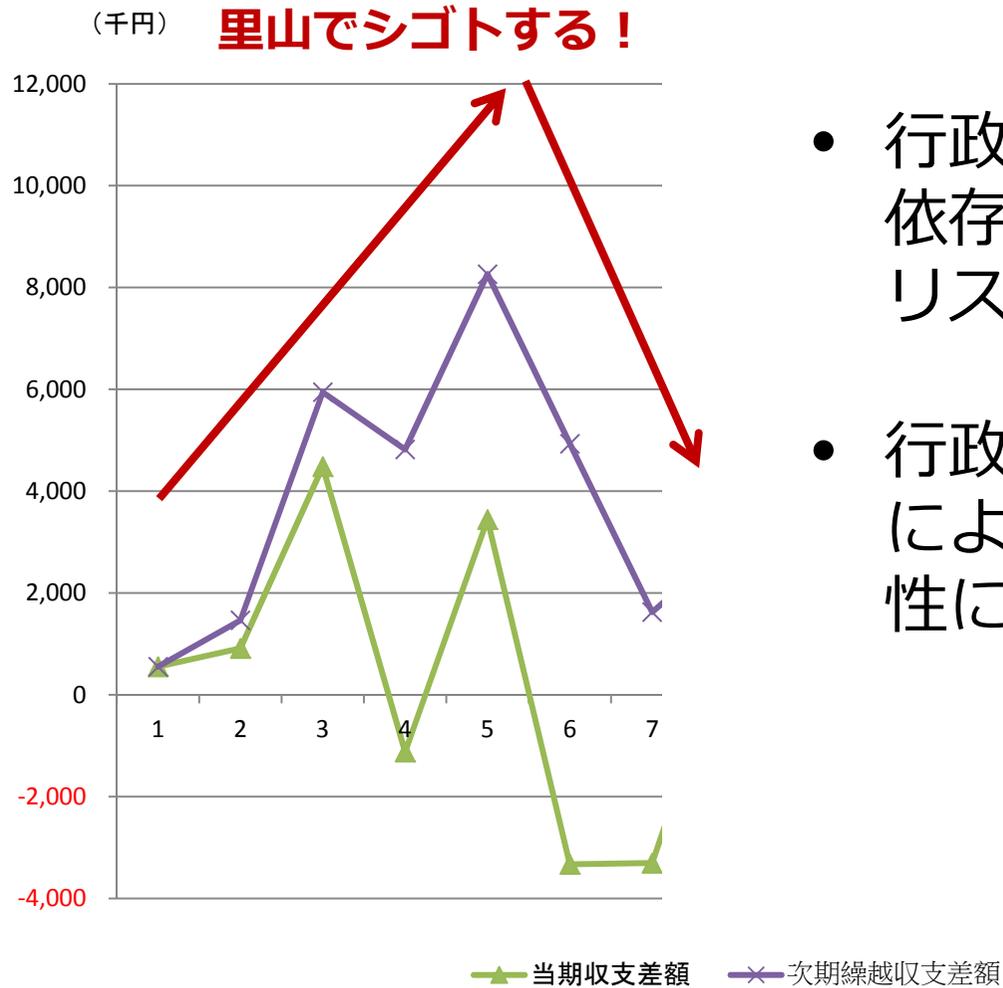
その他の団体会員

[NPO法人森づくりフォーラム](#)

本日の話題

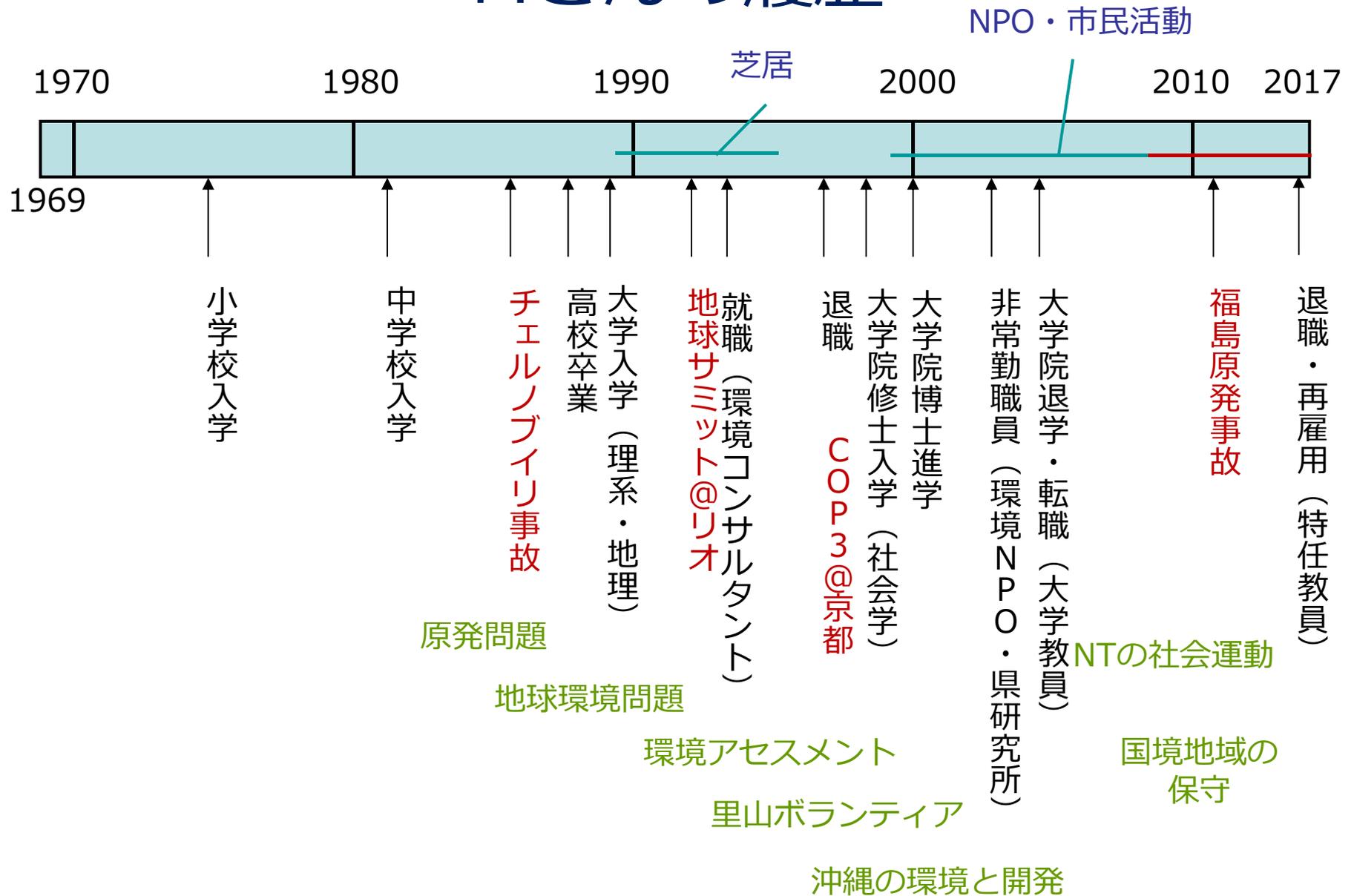
0. はじめに : 本研究プロジェクトで考えたいこと
1. NORAとは?
2. 森林づくり・里山保全の経緯と現状
3. NORAの課題対策への考え方と具体的なアプローチ

NORA収支差額の推移



- 行政からの受託事業に依存すると、経営上のリスクが高くなる。
- 行政 + NPOの市民協働による政策化は、正当性に欠ける。

Mさんの履歴



NPOがミッションを実現するための手法

政策化を目ざす：トップから変える

- 環境政策に関心のある首長、議員を当選させる。
- 話のわかる行政職員らと協働して、事業実施、制度設計などを図る。 制度化

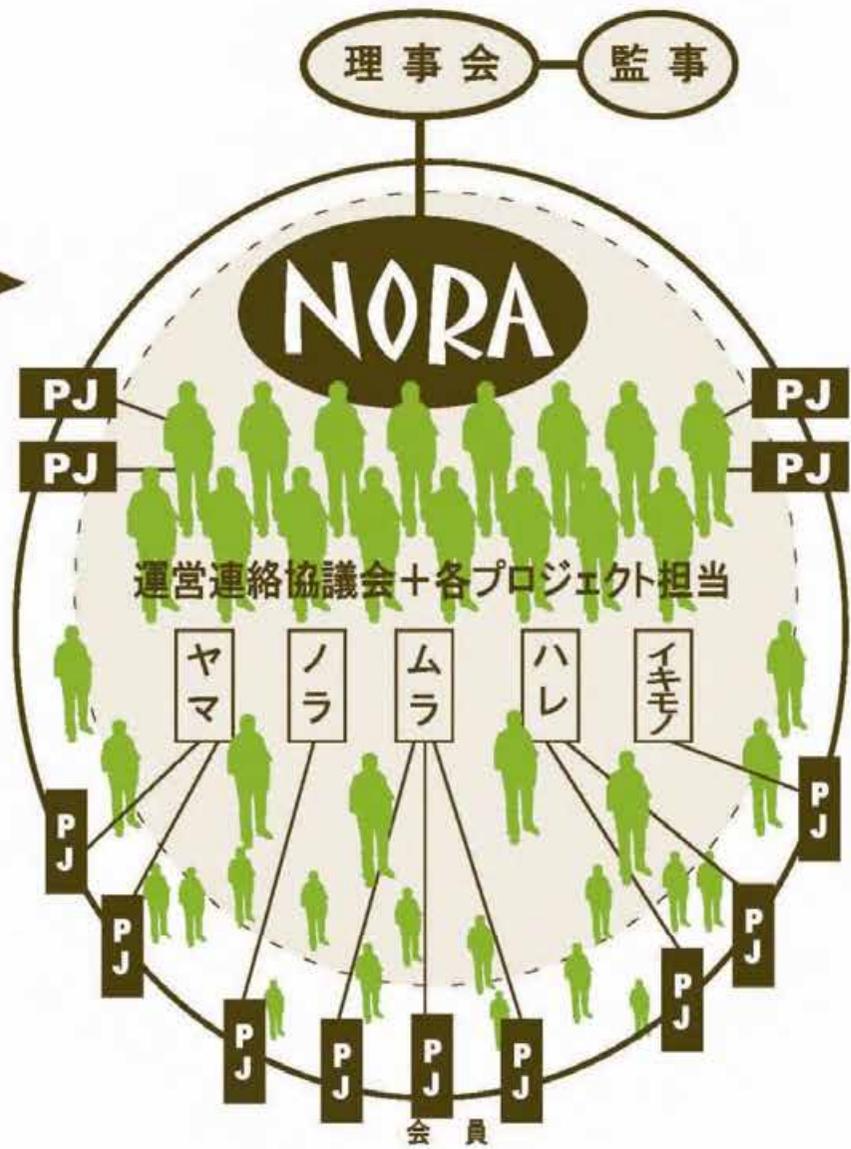
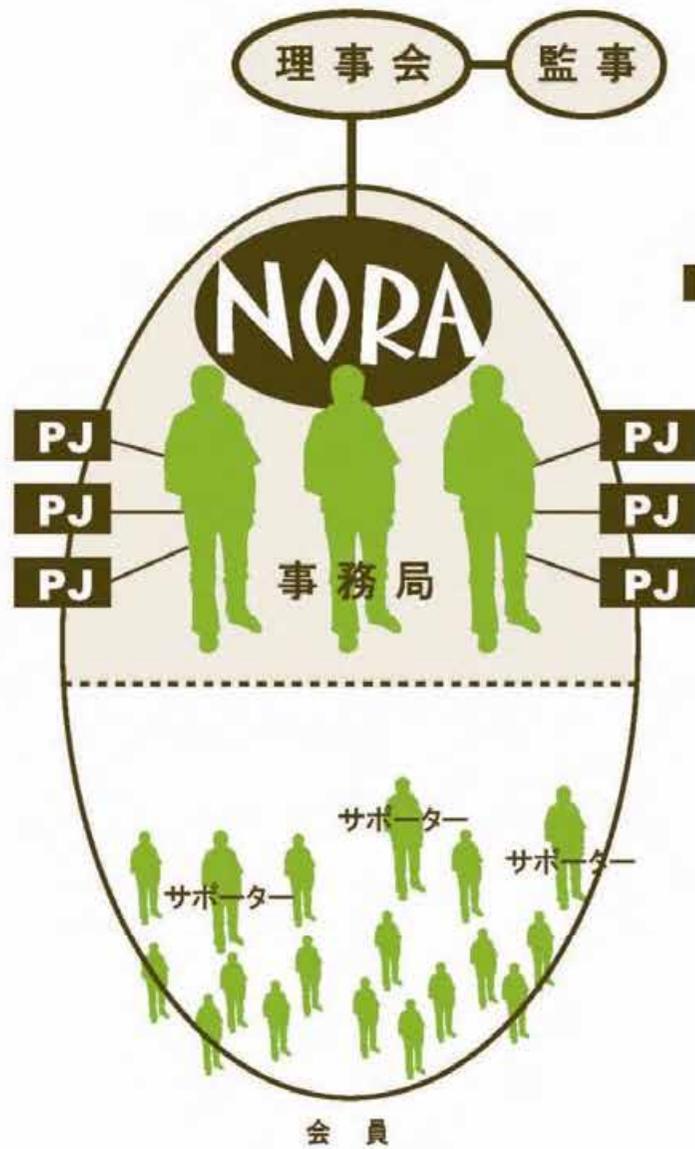
第1期：里山でシゴトする！

主体形成を図る：ボトムから変える

- 同じ理念で活動する人・団体を増やす。
- 同様の志向性で活動する人・団体をつないで、生き方・働き方として見せる。

第2期：里山とかがわる暮らしを





特定非営利活動法人 **NORA**
よこはま里山研究所

事務所をフリースペース「はまどま」へ

元 事務所



はまどま

「街にいながら里山とつながる場」を作るプロジェクト。

「はまどま」という名前には、“土間”の意味も込められています。土間は、農家の作業の場、生産の場、接客の場、団樂の場、そして内と外をつなぐ大事な空間。

横浜市南区の里山の入り口、人の和を築く場として様々なイベント・講座を行っています。





□■ 里山と暮らしをつなぐメールマガジン

□□■

第10号 2009年3月1日発行
特定非営利活動法人よこはま里山研究所(NORA)

<http://nora-yokohama.org/>

<転送歓迎>

よこはま里山研究所です。
NORAの取り組みがテレビで取材されました。

「農」にかつて無いほど注目が集まるなか、
NORAの果たす役割はますます重要になってきている
と実感しています。

これからもさまざまな活動を通して、
「農」「森」「里山」とつながる暮らしを提案していきますので、
ぜひ興味のあるプロジェクトへご参加ください。

<<もくじ>>

◆NORAからのお知らせ

01 ウェブサイトの新しい記事

02 3/21 NORAの活動がTVKで放送されます

◆NORAプロジェクト

03 3/8,22 NORAの山仕事

04 3/14,15 安全な伐倒技術を身につけるための講習会

05 3/21 Marcの野菜市、毎週火曜日はNORAの野菜市

06 3/22 NORAの野良仕事

07 3/23 神奈川野菜を使った料理教室

08 第1・3火曜 刃物研ぎ実演 in はまどま

◆NORAのコラム

09 雨の日も里山三昧～NORAお勤めの本と映像 <第6回>

◆里山関連ニュース&イベント

12 横浜、神奈川でのイベント(6件)

13 その他地域でのイベント(7件)

14 よこはま+里山についてのニュース(6件)

◆NORAからのお知らせ

01 ウェブサイトの新しい記事

◇2/9 神奈川野菜の食事会 vol.24【ムラ】

<http://nora-yokohama.org/mura/archives/2009/02/09-0220.html>

◇2/20 「たかひかた」は、いろいろ。(NORA野菜市)【ムラ】

<http://nora-yokohama.org/mura/archives/2009/02/20-2229.html>

◇2/23 白菜づくしく(神奈川野菜を使った料理教室)【ムラ】

<http://nora-yokohama.org/mura/archives/2009/02/23-1842.html>

◇2/28 木質バイオマス利用～「きりん君2」始動！(NORAの部活動)【ムラ】

<http://nora-yokohama.org/mura/archives/2009/02/28-2330.html>

02 3/21(土) NORAの活動がTVKで放送されます

TVK(テレビ神奈川)の報道特別番組のお知らせです。

NORA理事・三好豊の取材を中心に、
NORAの野良仕事のフィールドでもある、小田原市の小沢和義さん、
はまどままでの食事会や、野菜市の様子などが紹介されるもようです。

04 3/14,15 森林ボランティア向け安全講習会
安全な伐倒技術を身につけるための講習会

今回の研修では1日目に伐倒の基礎知識、危険予知活動、
作業計画の立て方など、木を安全に伐倒するための基本を学びます。
2日目は実習を中心に、道具・機器の取扱い、チェーンソー実習、
伐倒実習を行います。

講師にお招きするのは、林業事業者の技能職員が集まって設立された
「NPO法人信州そまむとクラブ」の皆さんです。
林業の理論と経験に裏付けられた分かりやすい指導は定評があります。

詳細はこちら

http://nora-yokohama.org/news/pi_kokuchi/post_9.html

日程 : 2009年3月14日(土)～15日(日)
場所 : 川井緑地及び神奈川県立旭高校(横浜市旭区)
対象 : 森づくり活動団体に所属して実践されている方。
定員 : 20名
参加費 : 4,800円(2日間、保険料を含む)
締め切り: 3月7日(土) 必着

◆NORAのコラム

09 雨の日も里山三昧～NORAお勤めの本と映像 <第6回>

●鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』(ちくま新書、1996年)

第3回・第4回のコラムでは、私が里山保全活動を始めてから出会い、
大きな影響を受けてきた倉本宜さんと中川重年さんについて、
いくつかの著書を紹介しながら、おふたりとの出会いを記しました。
振り返ると、このように里山や雑木林をキーワードとして
つながった方々の影響は確かに強いものがあります。
しかし、現在のようなNPOに関わる生き方に向けて
最も大きなインパクトを与えたのは、
おそらく、鬼頭先生の『自然保護を問いなおす』だと思います。
この本との出会いが1つのきっかけとなって、
4年間勤めていた会社を辞めて、勉強しよう、
フィールドに出ようと思うきっかけを与えてくれたのですから。

続きははこちら

http://nora-yokohama.org/satoyama/003/post_5.html

◎オスムの樹に取り上げた本

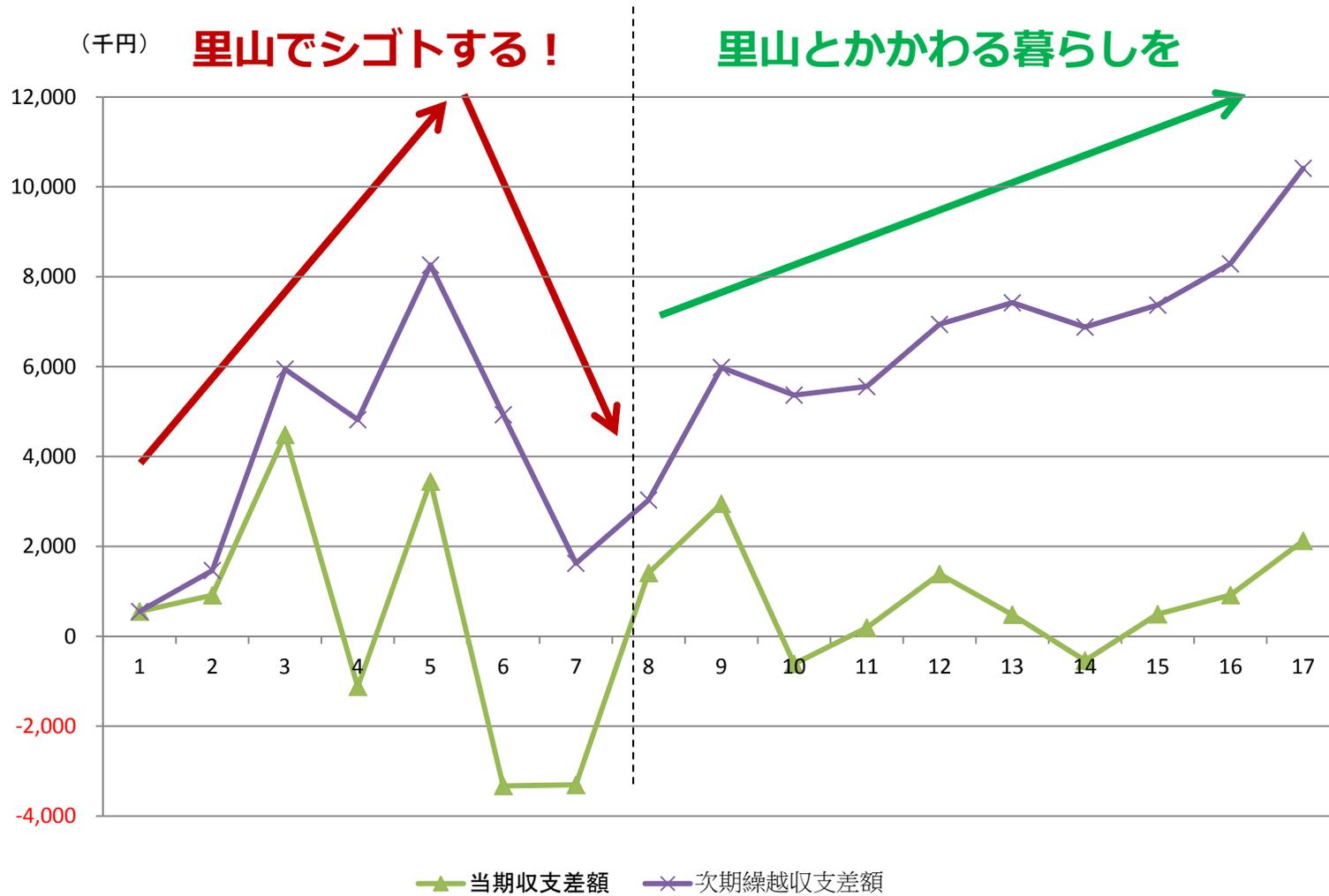
鬼頭秀一編『講座人間と環境15 環境の豊かさをもとめて一理念と運動』
(昭和堂、1999年)

察谷いづみ・鬼頭秀一編『自然再生のための生物多様性モニタリング』
(東京大学出版会、2007年)

(松村正治)

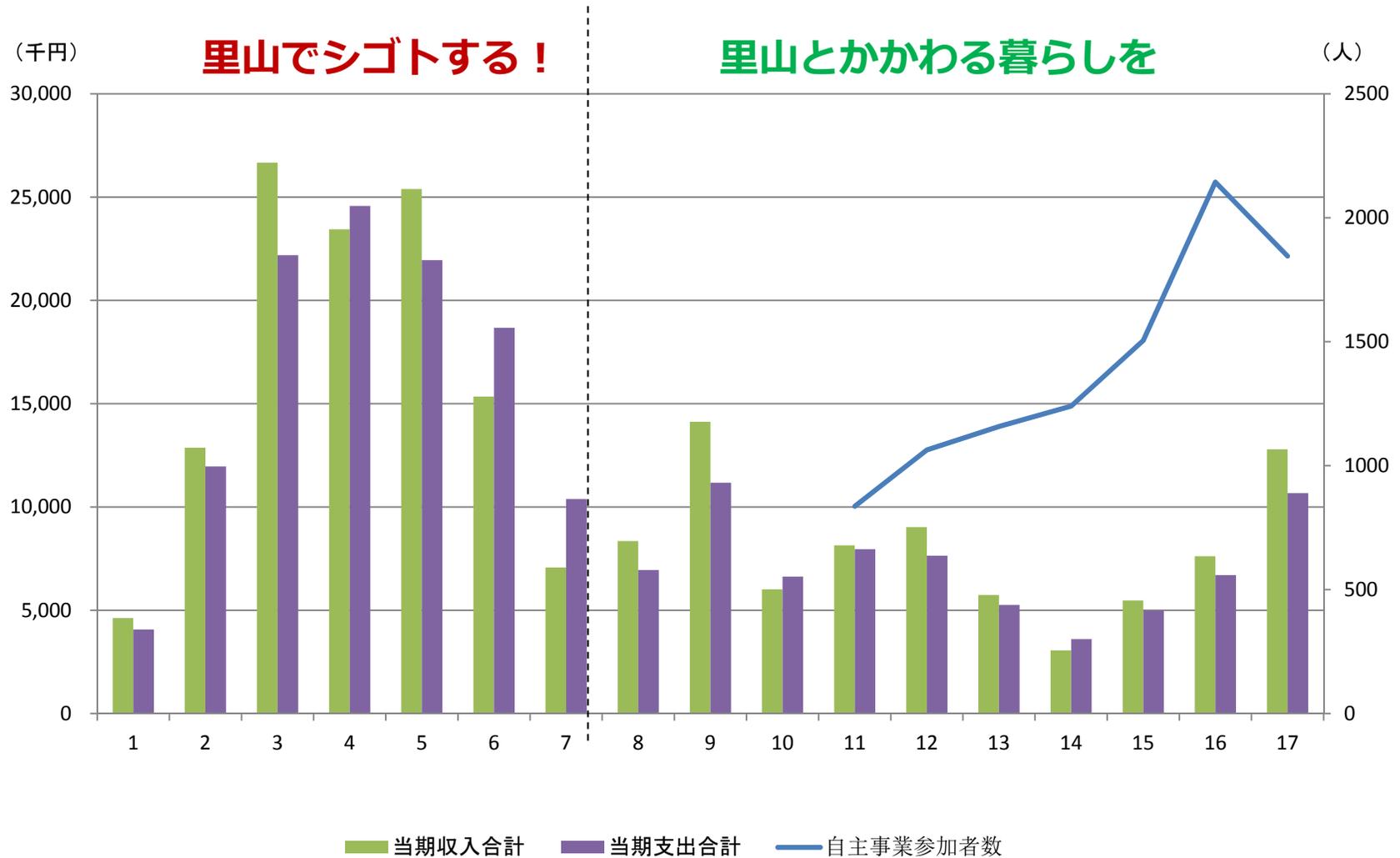
特定非営利活動法人
よこはま里山研究所 NORA

NORA収支差額の推移



※第8期は6ヶ月

NORA当期収入・支出の推移



※第8期は6ヶ月

関係的に「里山」を捉える

「里山」に込められる様々な意味

- 奥山に対する里山
- 生物多様性保全上重要な里山
- 田舎（地方）暮らしをイメージさせる里山

「里山」の捉え方

- 私たちが生きる上では、実体的に捉えるよりも、関係的に捉える方がいい。
- 人と自然の関係性を「取り戻す」ことが重要。

環境思想における「かかわり革命」

- 生活環境主義：近い水←→遠い水（嘉田由紀子）
- かかわり主義（井上真）
- 新しいコモンズ（宮内泰介）
- 社会的リンク論：かかわりの全体性（鬼頭秀一）

→かかわる人びと・社会にとって良いこと

→かかわられる対象（資源／生態系）にとって良いこと



“かかわり方はいろいろ”

現代社会の都市住民が里山とかかわる意味

「眺める自然」から「かかわる自然」へ

- かかわることで、自分の所有地でなくても、**当事者性**が芽生え**自分事**になる。
- 流動性の高い現代社会にあって、かかわる場所を持つことは、**係留点／基準点**を与えてくれる。

空間（space）から場所（place）へ

- 私から見た→生き方、暮らし方の問題
- 宇宙から見た→社会-生態系の資源活用問題

環境統治性 win-win?

かかわりから学ぶ「自然の他者性」 ～他者と共に生きるために～

- 里山とかかわること、**自然の他者性**（鬼頭, 2015）を思い知らされる。
- 自然の全てを制御できると考えず、自然から**恵み**を受け取るとともに、**禍**も受け入れられる（同時に自分も受け入れられる）。

→**他者**を受け入れ、**共に生きる力**

持続可能な里山ガバナンスに向けた NORAの取り組み

1. 里山保全ボランティアの世代交代
 - よこはま里山レンジャーズ
 - 若手リーダー育成研修
2. 里山保全をシゴトに／里山のシゴトが保全に
 - まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

ボランティアの世代交代（萌芽更新） に向けて

- ・ 2012年～**よこはま里山レンジャーズ**
 - 認定NPO法人自然環境復元協会のレンジャーズプロジェクトの仕組みを、横浜市内の里山でコーディネート。
 - 20～40代の参加が多い。ボランティア活動の入口。
- ・ 2015年～**里山ボランティア若手リーダー育成**
 - 安全で楽しい里山保全活動をリードする若者の育成。
 - 日本環境保全ボランティアネットワーク（JCVN）と連携。

よこはま里山レンジャーズ

- レンジャーズ登録者数は約2,200人。参加者には学生、20～30代の社会人のほか、子育てを終えた世代も多い。





恩田の谷戸

新治里山公園

川井緑地

カーリットの森

桜ヶ丘緑地

はまどま

瀬上市民の森

🟢 レンジャーズプロジェクトの参加方法と流れ

1 まず登録！



【隊員の心得】をお読みいただき、以下の【登録フォーム】から申し込みください。

隊員の心得 →

登録フォーム →

2 ご登録の確認



ご登録完了メールが届きます。

3 出動要請（不定期）



ご登録後、「出動要請！〇月〇日××区で竹林保全活動があります～」
とこのような内容が届きます。
参加できる方は、返信で参加申し込みをします。

4 当日

RANGERS PROJECT.

身近な自然を守るレンジャーズプロジェクト
緑いっぱいの町にする隊員募集！





安全で楽しい森づくりを担う若手リーダー育成

- ・ **里山保全ボランティアの若手現場リーダー育成講座**
 - 座学：リーダー概論、リスク評価・管理など
 - 実習：作業計画づくり、道具の使い方、グループでの伐倒など



The Conservation Volunteers [U.K.]の リーダー養成プログラムを応用



Green Gym

Employment &
Training

Community Builder

Volunteering

自律的な暮らしへ向かうムーブメント

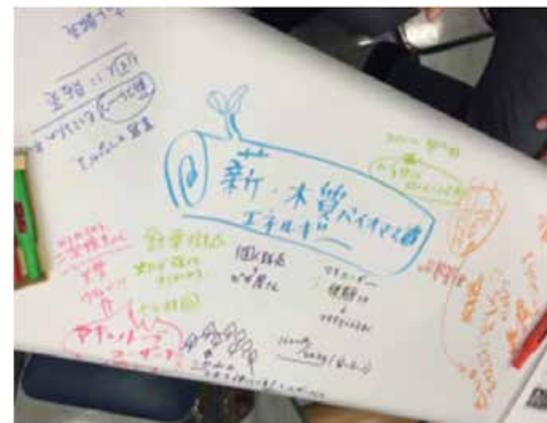
- リーマンショック（2009）、東日本大震災（2011）後の現在、高度にシステム化された脆弱な都市生活より、**地域に根ざした**農山村での暮らしを志向し、地方への移住を選ぶ人もいる。
- もっぱら消費するのではなく、できるものは**自給**して、手が届きにくい政治や経済に左右されない**自律的な仕事と暮らし**を目ざす動きが強まっているようだ。
- まちの近くでも、地域の自然・文化とかがわる暮らしを選び、仕事をつくる人が現れてきた。

ボランティアではなく若者に魅力あるシゴトづくりへ

- ・ 2016年～ まちの近くで里山をいかすシゴトづくり
 - 里山保全、公園管理、農福連携、環境教育、地域おこし、木工、ネットショップ、経営診断などを専門とする有志によるプロジェクトチームを発足。
 - 都市近郊の里山の資源・空間を活用した社会的起業を支援するプラットフォームづくりへ。
 - 里山保全をシゴトへ→里山でのシゴトが保全に

まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

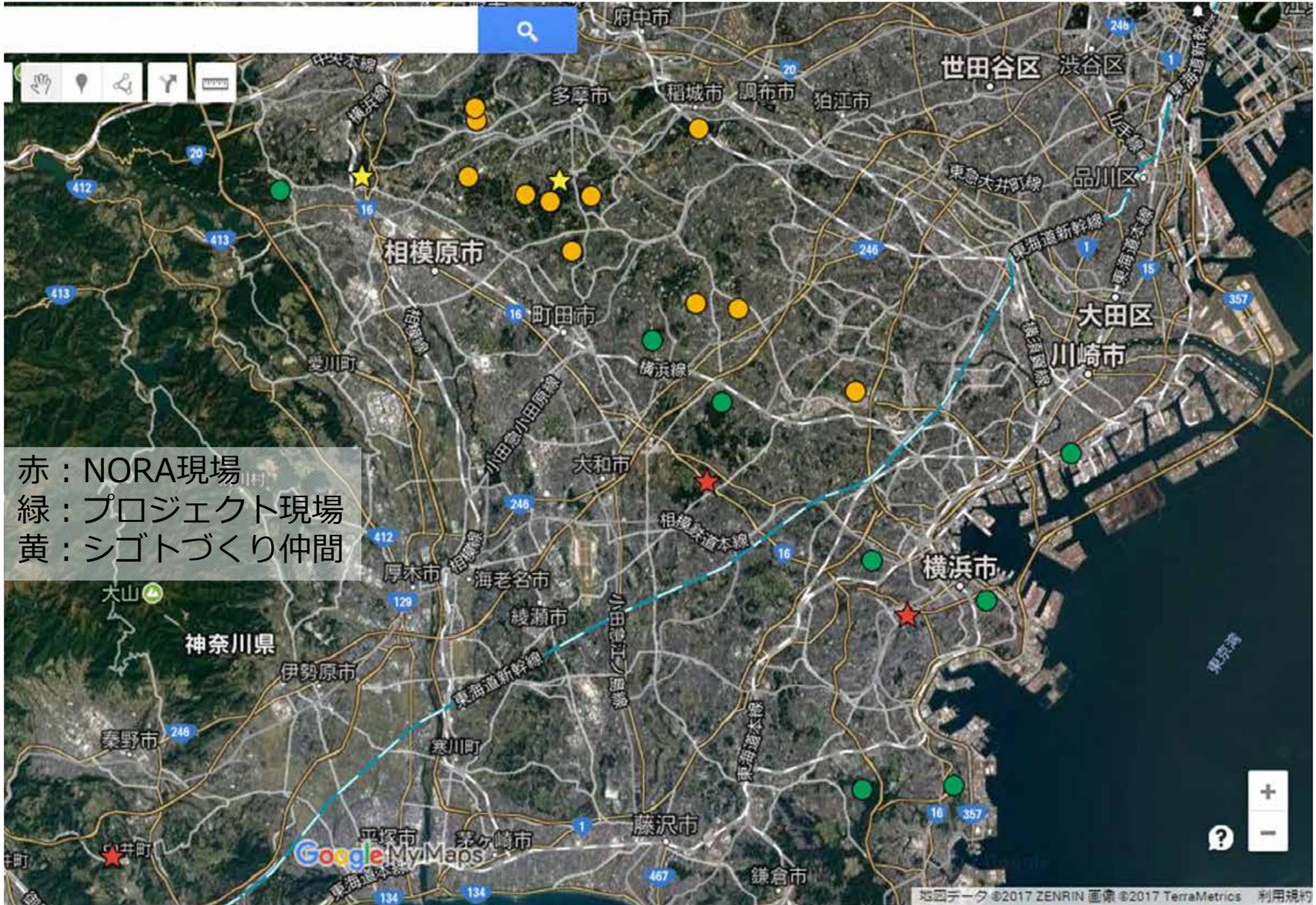
- 2016.1 シゴトづくりワークショップ@横浜
登壇者：8名 参加者：のべ140名（2日間）



まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

- 2017.2 仕事と暮らしフォーラム@多摩
登壇者：6名 参加者：60名（1日間）





持続可能な里山保全の仕組みづくりへ

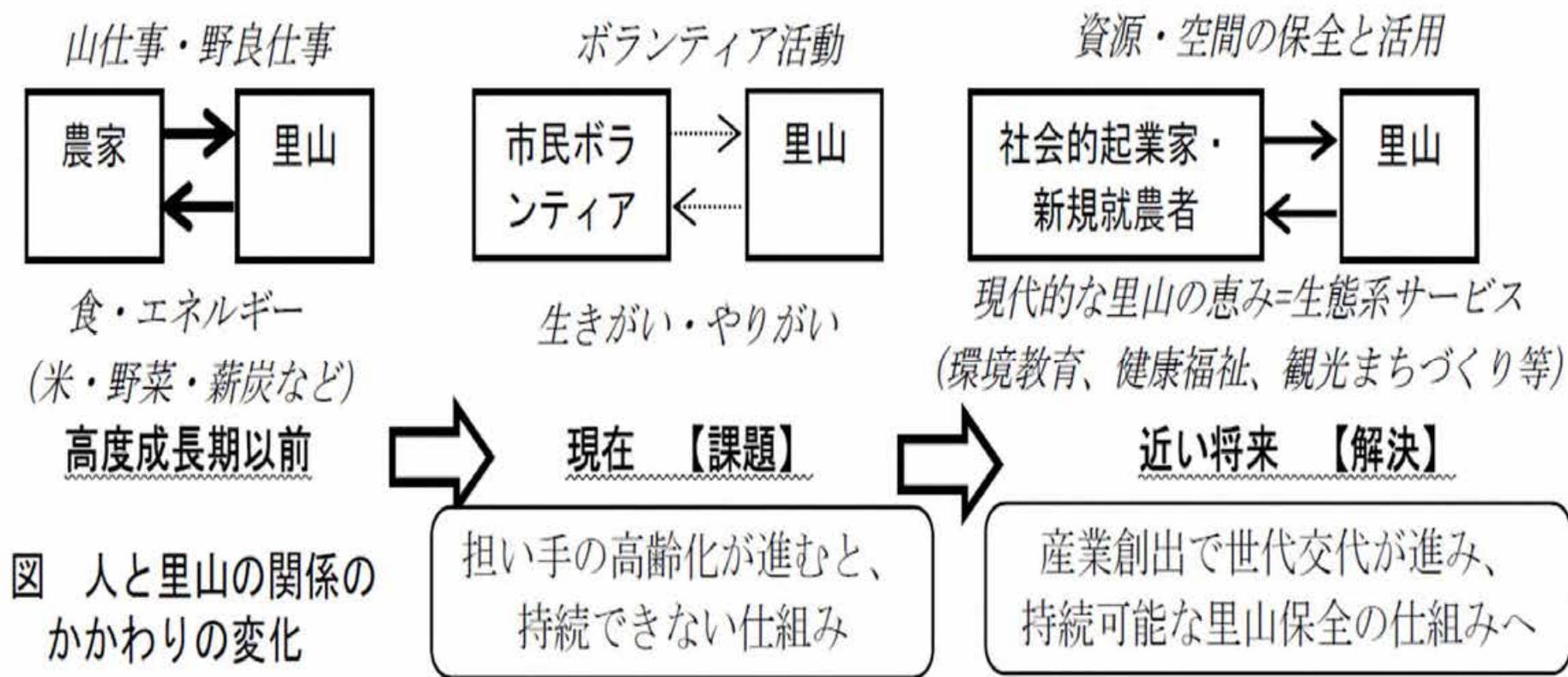


図 人と里山のかかわりの変化

里山をいかすシゴトづくり仲間

- [NPO法人NPOフュージョン長池](#) 公園づくり、里山保全
- [NPO法人多摩草むらの会](#) 農福連携
- [NPO法人日本の竹ファンクラブ](#) 観光まちづくり
- [\(株\) F I O](#) 農業、まちづくり 参考：[TABICA](#)
- [たまエンパワー](#) (株) 自然エネルギー
- [\(一社\) 八王子協同エネルギー](#) 自然エネルギー、里山
- [\(一社\) まちやま](#) 自然体験、環境教育
- [\(一社\) エリアマネジメント南山](#) まちづくり
- [NPO法人森ノオト](#) ローカルメディア
- [コマデリ](#) 地産地消
- [薪まきカフェ](#) コミュニティカフェ など

2017.10.9 実践ゼミナール@新治 (横浜)



「まちの近くで里山をいかすシゴトづくり」
実践ゼミナール | 第2回 |
里山の恵み
ネット販売
2017.10.9. 月祝 13:00 - 16:30 新治里山公園
主催：NPO 法人よこはま里山研究所 (NORA) / たま里山研究室 (TAMA) / 協力：株式会社かんほ生命保険

現在取り組んでいること

- **人びとのネットワークづくり**
テーマ別ワークショップ、フォーラム開催
メーリングリスト情報交換
- **人や情報が集まるサイトづくり**
「里山をいかす仕事」と「里山とかかわる暮らし」の応援
プロボノ集団 ([a-con](#)) に協力を依頼中
- **活動を支える理念づくり**
3.11後の仕事と暮らしのあり方、理念づくり
実践者と研究者との対話を企画

2017.11.9 環境倫理ゼミナール@青山

まちの近くの
里山の環境倫理
ゼミナール 01

2017.11.9. 木
19:00 - 21:00
地球環境パートナー
シッププラザ

カセギに流されない シゴトづくり

～実践の現場から考える都市生活のあり方

PRESENTERS 小野 淳 さん (株)農天気代表取締役 / NPO 法人くにたち農園の会理事長
石田 周一 さん (社福)同愛会幸陽園農耕班 / NPO 法人よこはま里山研究所理事

commentator 鬼頭 秀一 さん 星槎大学教授 / 東京大学名誉教授

主催：NPO 法人よこはま里山研究所 (NORA) / たま里山研究室 (TAMA)
協力：株式会社かんぼ生命保険

NPOがミッションを実現するための手法

政策化を目指す：トップから変える

NPO + 行政

- 環境政策に関心のある首長、議員を当選させる。
- 話のわかる行政職員らと協働して、事業実施、制度設計などを図る。 制度化

第1期：里山でシゴトする！

主体形成を図る：ボトムから変える

- 同じ理念で活動する人・団体を増やす。
- 同様の志向性で活動する人・団体をつないで、生き方働き方として見せる。

第2期：里山とかわる暮らしを

NPO + 社会的起業家 +
新規就農者等の有志連合

第3期：里山とかわる仕事と暮らしづくり？

NORAの環境運動の現在

- 高度成長期以降、里山は放棄され、開発された。
- 里山の特徴である持続性や多様性は、経済効率性よりも軽視された。→社会のあり様が景観に表れる
- 高度成長期の開発モデルに希望を持たない人が増えている。
- グローバルな環境統治性の支配に抗う多様で個人化された生。
- 社会を変えるのに、上からの制度化を目ざすのではなく、下からのシゴトやナリワイ（伊藤, 2014）づくりの拡がりとならび、現代都市社会における生き方、働き方を見直す運動を展開。

論点

- 個人ベースの変革のゆるやかな連帯は、マクロな社会-生態系、里山ガバナンスのあり方に対して、いい変化を促すのか？
- 流動性の高い現代の都市社会に住む個人の生き方の問題と、社会-生態系の資源活用の問題の同時解決はありうるのか？
- 自然の他者性に触れながら、共に生きていくことを探る意味は？

終